2305876H04403

MITSUBISHI ELECTRIC

三菱設備用ロスナイ
〈床置ビルトイン形 加湿付〉

据付工事説明書

販売店・工事店様用

形　　名
LB-150KX5－50（3 相 200V 50Hz）
LB-150KX5－60（3 相 200V 60Hz）
LB-200KX5－50（3 相 200V 50Hz）
LB-200KX5－60（3 相 200V 60Hz）

この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この据付工事説明書をよくお読みください。

■据付工事は必ず専門の工事店で実施してください。電気工事は電気工事士の方が実施してください。（お客様自身で据付けないでください。無資格者の電気工事は法律で禁止されています）
給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が実施してください。

■据付工事部品は必ず付属部品および指定部品をご使用ください。当社指定部品を使用しないと、故障の原因となります。

もくじ　ページ

据付けの前に

安全のために必ず守ること… 2～3
外形寸法図と各部のなまえ…… 4

据付工事

据付工事の前に…… 5～6
据付工事のポイント …… 5
据付場所の選定 …… 5
防音方法 …… 6
搬入方法…… 6～8
一括搬入方法 …… 6
分割搬入方法 ……6～8
据付方法…… 8～11
本体の据付け …… 8
ダクト工事 …… 9
給水配管・凍結防止工事 …… 10
ドレン配管工事 …… 11
電気工事……12～22
機能設定……23～29

試運転

試運転……30～34

お客様への説明……35

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。
据付工事が終わりましたらこの説明書とともに、お客様に必ずお渡しください。

安全のために必ず守ること

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

■“図記号”の意味は次のとおりです。

	禁止		風呂・シャワー室での使用禁止
	分解禁止		指示に従い必ず行う
	アース線を必ず接続せよ		

⚠警告

禁止	**クレーンによる吊り上げ作業中は、製品に近づかない** （落下によるけがの原因になります）
	低温（0℃以下）となる場所には据付けない (電磁弁、配管等が破裂し水漏れの原因になります)
	高温（40℃以上）や直接炎があたったり、油煙の多い場所には据付けない （火災のおそれがあります）
	機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所には据付けない （絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります）
	塩害・温泉害などの発生している場所には据付けない （絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります）
分解禁止	**改造や必要以上の分解をしない** （火災・感電・けがの原因となります）
風呂・シャワー室での使用禁止	**浴室など湿気の多い場所には、本体・リモコンとも取付けない** （感電や故障の原因になります）
指示に従い必ず行う	**定格電圧、制御容量範囲で使用する** （間違った電圧で使用すると火災や感電の原因になります）
	外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ （新鮮な空気が入らず、酸欠状態になるおそれがあります）
	本体の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う （転倒によりけがをすることがあります）
	端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する （接続に不備があると火災のおそれがあります）
	電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って取付けし、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する （電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因になります）
指示に従い必ず行う	**金属製ダクトがメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電気的に接続しないように取付ける** （接続されていると漏電した場合、火災の原因になります）
	電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る （通電状態では感電やけがをすることがあります）
	保守点検の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る （通電状態では感電やけがをすることがあります）
	搬入時の吊り上げは、アイボルトに強固なロープを通して吊り上げる （落下によるけがの原因になります）
	凍結のおそれのある地域では、必ず凍結防止工事を行う （電磁弁･配管などが破損し、水漏れの原因になります）
	給水配管には必ず凍結防止工事を行う （電磁弁･配管などが破裂し、水漏れの原因になります）
	外気温度－ 15℃～ 40℃の使用範囲を守る （使用範囲以外で使用すると漏電・火災のおそれがあります）
	制御ボックスパネルは施工後、必ず取付ける （ほこり･湿気などにより漏電･火災の原因になります）
	室外側ダクトは室外に向かって下りこう配（1/30 以上）になるように取付け、断熱処理を確実に行い、外壁にも雨水浸入防止の処理を行う （雨水の浸入による漏電・火災や建物・機械などの損傷のおそれがあります）
	据付け後長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る （絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります）
	ドレン配管工事は据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理をする （配管工事に不備があると水漏れし、床その他建物・機械などを濡らす原因になります）
	SA 側のダクト、システム部材およびドレン配管には必ず断熱処理を行う （冷房時、結露により漏電・建物・機械の破損のおそれがあります）
アース線を必ず接続せよ	**アース（D 種接地）を確実に取付ける** （アースを取付けないと故障や漏電のときに感電の原因になります）

⚠ 注意

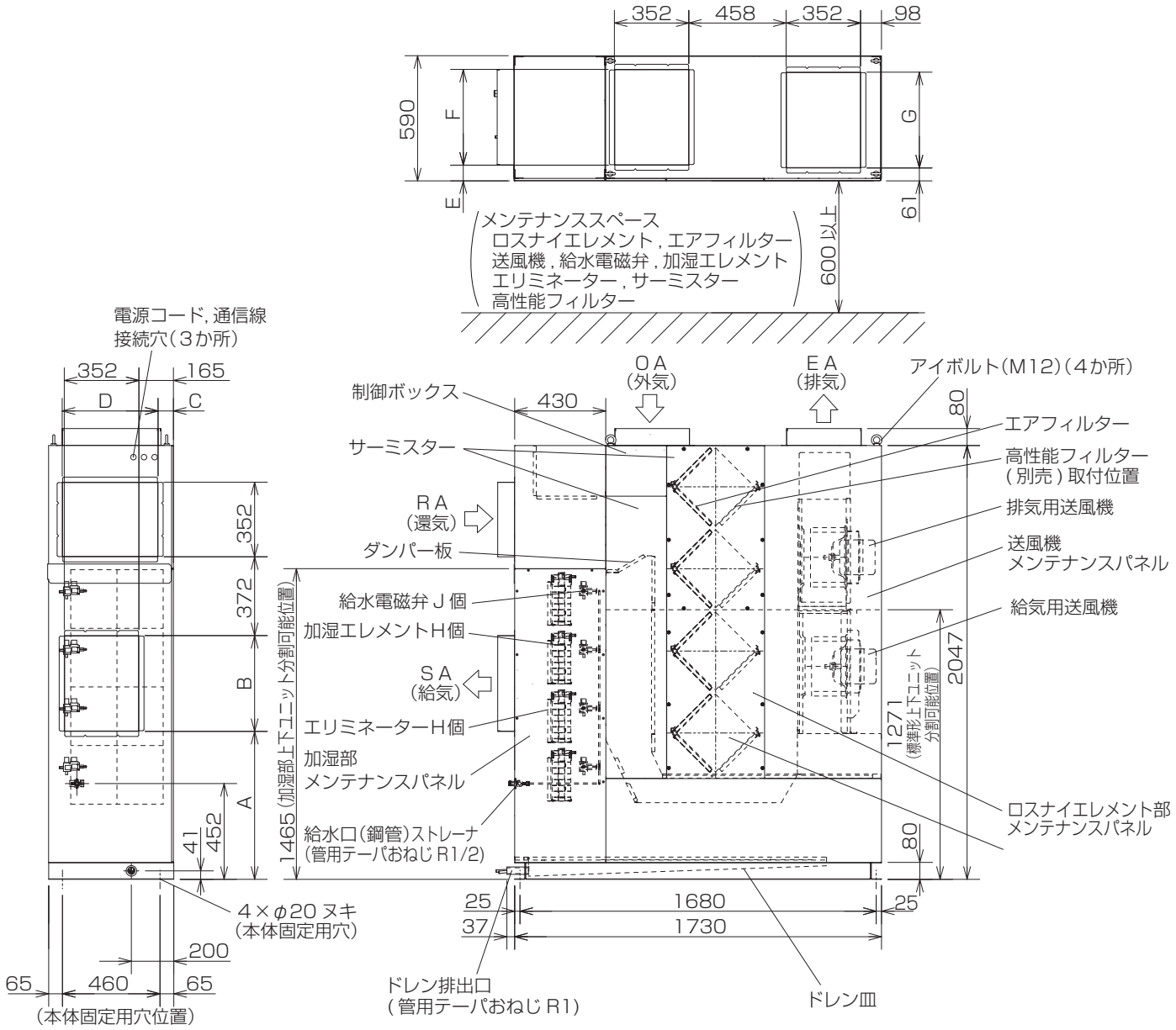
禁　止	**軟水器を使用しない** （残留物が析出し、飛散する原因になります）	指示に従い必ず行う	**保守点検後の部品の取付けは確実に行う** （落下によりけがをすることがあります）
	過加湿にしない （結露により、建物を傷める原因になります）		**製品の運搬には十分注意して行う** （20 kg以上の製品は原則として二人以上で行ってください。素手で板金部品などに触れるとけがをする場合がありますので保護具をご使用ください）
指示に従い必ず行う	**据付けの際は手袋を着用する** （着用しないとけがの原因になります）		
	保守点検の際は手袋を着用する （着用しないとけがの原因になります）		

お願い

- 低外気温度時は冷風侵入により加湿部が凍結破損、結氷による水漏れする可能性があります。加湿運転時は室内暖房運転と併用してご使用ください。また、製品停止時は加湿部が 0℃以下にならないように電動ダンパーおよび凍結防止ヒーターを併用してください。
- 寒冷地や外風の強い場所並びに霧・もやの発生しやすい場所では運転停止時に、冷気・外風・霧・もやが侵入することがありますので、電動ダンパーを必ず併用してください。電動ダンパーを併用する場合、送風機運転モニター出力（電気工事 8 項を参照）の使用を検討ください。設置する風路に合わせ、電動ダンパーの開閉と送風機の運転を連動させることができます。
- 高温多湿条件（30℃以上のとき、相対湿度 80% 以上）や霧・もやの多発地帯で長時間使用となる場合、エレメント内部に結露が生じてドレンが発生することがあります。このような条件下では使用できませんので、耐湿形ロスナイをご使用ください。
  上記条件以外で、万が一ご使用中にドレン水が発生した場合は乾いた布等でふき取ってください。
- 製品を運転しない場合でも、室内外の圧力差や外風により外気が製品内に侵入するおそれがあります。電動ダンパーを併用してください。
- 寒冷地域などでは使用条件範囲内で使用する場合でも、外気条件と設置場所温湿度条件によっては本体表面およびダクト接続部他が結露・結氷するおそれがあります。このような使用条件下で使用される場合は、断熱材の重ね貼りの追加工事を実施してください。
  ※設置条件例　外気：－ 5℃以下、設置場所露点温度：10℃以上（設置場所温度 22℃以上で相対湿度 50%以上のときなど）
- 濡れて困るものの上に製品の給気口を設置しないでください。外気や設置場所の温湿度条件により製品から露が落ちる場合があります。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 給気側屋外フード近くに虫が集まりやすい環境にある場合、微細な虫が室内に侵入する場合がありますので、虫侵入防止対策をお勧めします。
- 室外側の OA(外気) ダクトに過大な圧力損失がかかると RA（還気）側から SA（給気）側への空気漏れが増加する傾向があります。OA 側に過大な圧力損失がかからないように施工してください。
- 喫煙室での換気用途としてはご使用できません。
- 本製品は、定期的なメンテンスを怠ると性能低下の原因となります。メンテナンスのために必ず本紙に記載しているメンテナンススペースを確保してください。
- 次のような場所には据付けないでください。（故障の原因になります）
  ・低温（0℃以下）になる場所　・高温（40℃以上）になる場所　・湿気（80% 以上）または油煙の多い場所
  ・機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所
  ・塩害・温泉害等の発生している場所

外形寸法図と各部のなまえ

※図は LB-200KX5 を示す



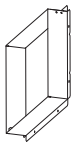
■変化寸法表

単位（mm）

形名	ダクトフランジ位置							個数	
	A	B	C	D	E	F	G	H	J
LB-150KX5	798	352	125	352	174	352	352	6	3
LB-200KX5	698	452	74	452	74	452	452	8	4

■付属部品

ダクト接続フランジ
…2 個



（ドレン排出口上に重ねて入っています）

取付ネジ
十字穴付トラスタッピンネジ
4×8…32 本 (LB-150 タイプ)
…40 本 (LB-200 タイプ)

（RAフランジ側に入っています）

据付工事の前に

据付工事のポイント

本体据付けのポイント

参照ページ

●防音対策を実施する……6 ページ

●分割搬入の際は連結後、すき間がある場合シリコン等で、コーキングする……8 ページ

●室外側ダクト（2 本）は、結露防止のため必ず断熱処理をする ……9 ページ

●据付は水準器を使用して水平（± 1°）にする ……8 ページ

水配管工事のポイント

参照ページ

●給水配管に凍結防止用ヒーター（市販品）を巻き凍結防止をする …… 10 ページ

●給水配管工事の際、切り屑などが入らないよう真水できれいに流してから配管するか、配管途中に排水バルブを設ける…… 10 ページ

●ドレン配管の配管こう配は 1/100 以上とする …… 11 ページ

●ドレン配管は 、ドレン排出口の根元より確実に断熱処理をする …… 11 ページ

電気工事のポイント

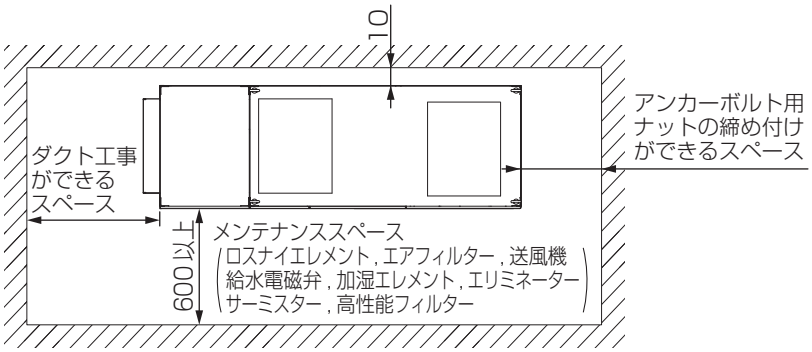
参照ページ

●伝送線と他の伝送線および電源線とは 50mm 以上離して配線する…… 12 ページ

●試運転 / パルス入力スイッチ (SW2) の確認 …… 17・18・24・30 ページ

●試運転時に送風機の回転方向を確認する…… 31 ページ

据付場所の選定



単位（mm）

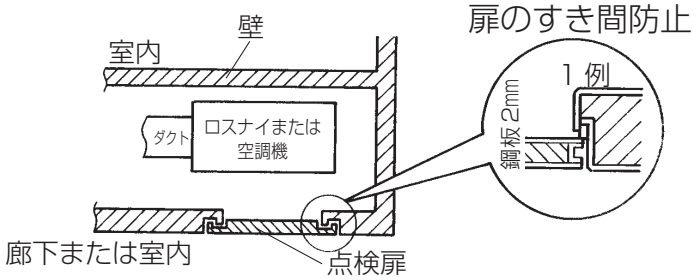
1. 基礎は堅固で水平な面とする。
2. 本体に雨水がかからない場所、またダクトから雨水の浸入がない場所に据付ける。
3. 据付場所の周囲温度が 0℃～ 40℃、湿度 80%以下の条件となる場所に据付ける。
4. 左図のスペースがとれる場所に据付ける。

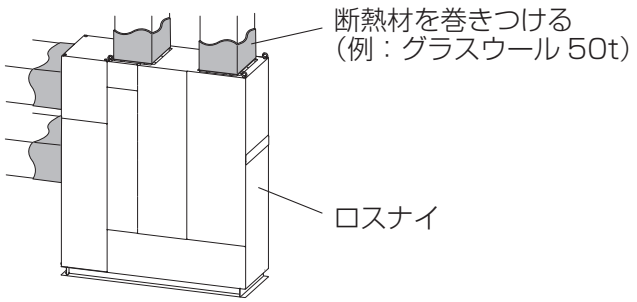
据付工事の前に　つづき

防音方法

■ 製品設置場所が静かな環境に隣接する場合には、周辺へのもれ音・反響音が少なくなるように次のような対策を行ってください。

- 製品と室内の間の壁および扉の材質は、音響透過損失の高い材質を使用し、密閉構造とする。
- 扉のすき間は音もれのない構造とする。
- 製品の給排気ダクトには、風の流れる音を消音するため、防露工事（室外側ダクトには断熱工事を必ず行う）を兼ねて、吸音率の高い材質をダクトに巻きつける。

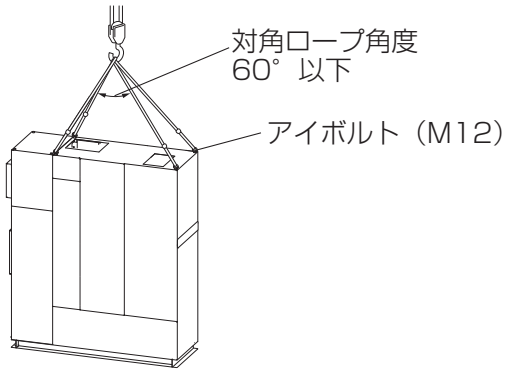




搬入方法

※図は LB-150KX5 を示す

一括搬入方法



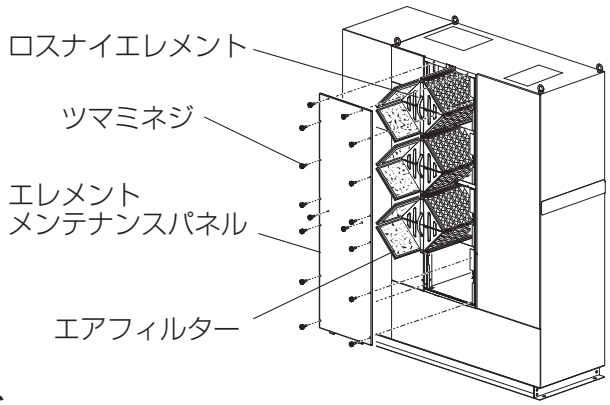
1. 4 か所のアイボルトに強固なロープを通す。
2. 対角ロープ角度が 60°以下になるようロープの長さを調節して、ていねいに吊り上げる。

お願い

- **上部のダクト接続フランジを付けてロープで吊り上げないでください。変形する原因になります。**

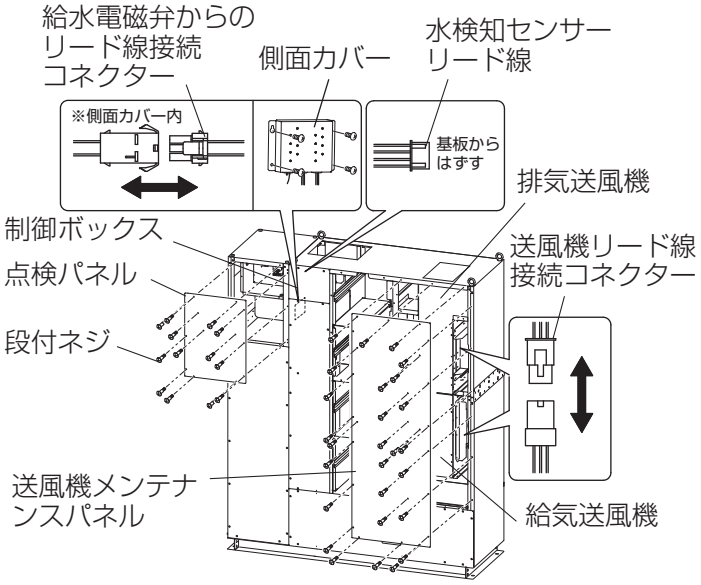
分割搬入方法

① ロスナイエレメントをはずす



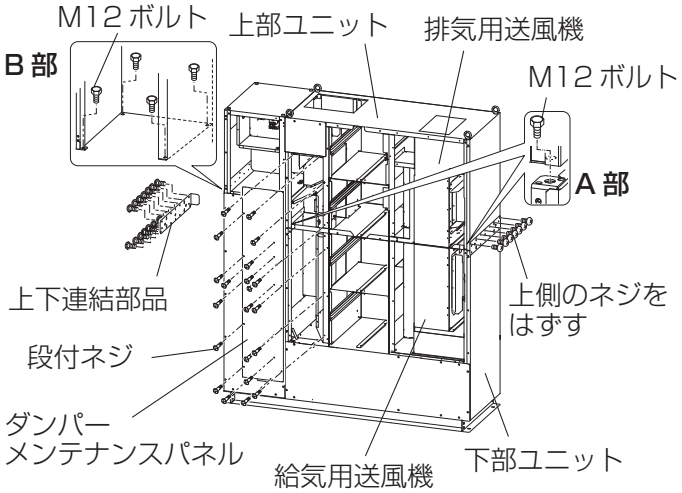
1. エレメントメンテナンスパネルのツマミネジ（16 本）をゆるめ上側に持ち上げてはずす。
2. ロスナイエレメント、エアフィルターを上の段から順に取りはずす。

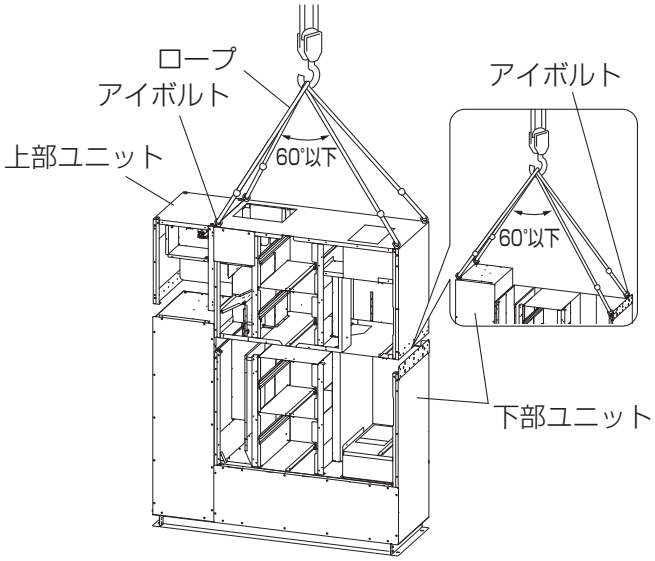
2 コネクターをはずす



1. 送風機メンテナンスパネルの段付ネジ(28 本)をゆるめて上側に持ち上げてはずす。
2. 給気、排気用送風機からのリード線接続コネクターをはずす。
3. 点検パネルの段付ネジ（13 本）をゆるめてはずす。
4. 側面カバーのネジ（4 本）をはずす。（上側のネジ（2 本）はゆるめるだけでカバーははずれます）
5. 給水電磁弁からのリード線接続コネクターをはずす。
6. 水検知センサーからのリード線接続コネクターをはずす。

3 上部ユニットと下部ユニットの分割





1. ダンパーメンテナンスパネルの段付ネジ（21 本）をゆるめて、上側に持ち上げてはずす。
2. 上下連結部品のどちらか一方を取りはずす。もう一方は上側のネジ（7 本）をはずす。
3. A 部の M12 ボルト（2 本）および B 部 M12 ボルト（4 本）をはずす。(接続時に必要ですので無くさないでください)
4. 上部ユニットから排気用送風機のネジ（3 本）をはずし、送風機を取り出す。（ネジ 1 本は給気用送風機と共用しています）

お願い

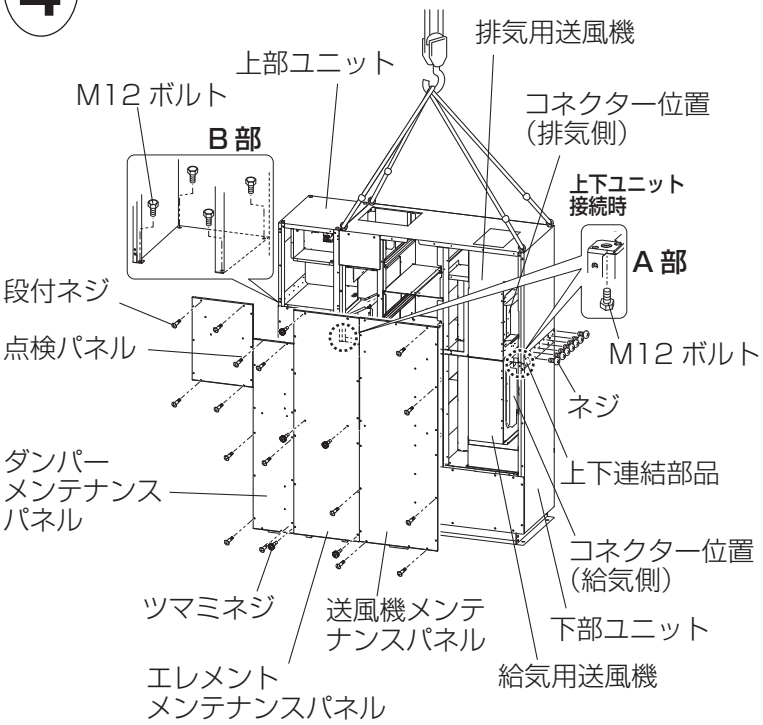
- **上部ユニット底面の変形を防止するために、必ず排気用送風機 (上側) から取り出してください。**

5. 下部ユニットから給気用送風機のネジ（2 本）をはずし、送風機を取り出す。
（送風機脱落防止のため、下側送風機をはずします）
6. 上部ユニットのアイボルト 4 か所に強固なロープを通す。
7. 対角ロープ角度が 60° 以下になるように、ロープ長さを調節して、ていねいに吊り上げ上下ユニットを分割する。
8. 上下ユニット分割後、上部ユニットの 4 か所のアイボルトをはずし、下部ユニットに付け換える。

搬入方法　つづき

分割搬入方法　つづき

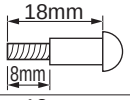
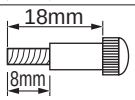
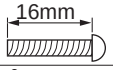
④ 搬入と組立て



お願い

- **分割搬入する場合、分割した各ユニットは図の状態のままとし、横向き等にはしないでください。（図以外の状態にすると本体ケーシングの破損やダンパー等の故障の原因になります）**

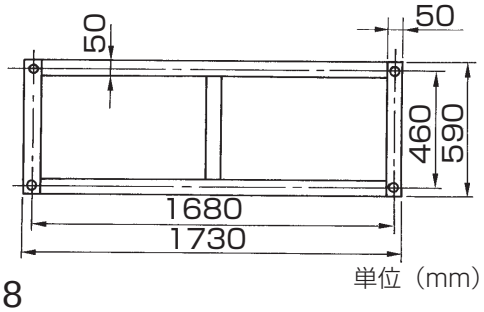
1. 下部ユニット搬入後、アイボルトを上部ユニットに付け換える。
2. A 部の M12 ボルトを下部ユニット下側からねじ込む。（位置合わせ用）
3. 上部ユニットを下部ユニットへ吊り上げて乗せ、上下連結部品を確実に締め付ける。
   - ●連結後すき間がある場合は、シリコン等でコーキングをします。
4. 取りはずした部品を元通り取付ける。
   - ●給気用送風機→排気用送風機→リード線接続コネクター
   - ●ロスナイエレメント→エアフィルター（エアフィルター取付位置図参照）
   - ●給水電磁弁からのリード線中継コネクター、水検知センサーからのリード線を接続する。
   - ●B 部の M12 ボルト（4 本）を元通り締め付ける。
5. 各メンテナンスパネルを元通り取付ける。

	数量	ネジ種類	締付トルク
送風機メンテナンスパネル	28 本	段付トラス小ネジ M4 × 18 	1.42 ± 0.25N · m
ダンパーメンテナンスパネル	21 本		
加湿部メンテナンスパネル	14 本		
点検パネル	13 本		
エレメントメンテナンスパネル	16 本	十字穴付ツマミネジ M5 × 18 	2.74 ± 0.5N · m
上下連結部品（2 個）	14 本＋（片側 7 本）	十字穴付トラスタッピングネジ 5 × 16 	
送風機固定ネジ（給気・排気）	給気 3 本 / 排気 2 本（1 本は共用）	十字穴付トラスタッピングネジ 4 × 8	1.42 ± 0.25N · m
	給気 1 本	十字穴付トラスタッピングネジ 4 × 12	

据付方法

本体の据付け

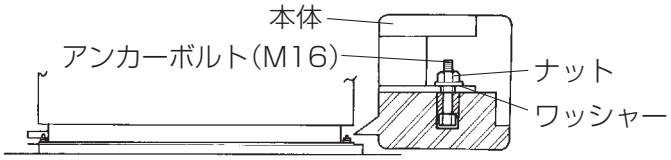
■本体のベース設置面図



- 本体を水平に据付け、市販のワッシャー・ナット（M16）で確実に固定する。

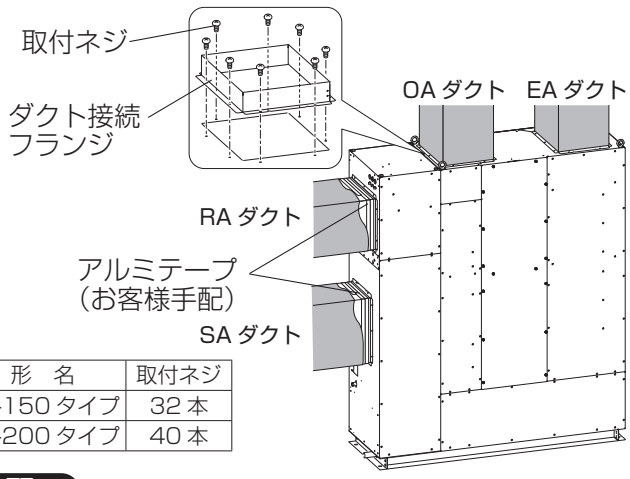
お願い

- **図のベース部分全てで製品質量を支えるように据付けてください。**
- **本体の据付は水準器を使用して水平（± 1°）にしてください。**



ダクト工事

※図は LB-150KX5 を示す



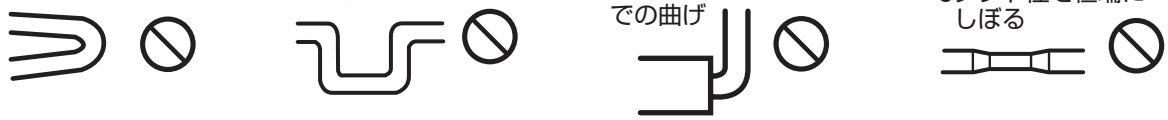
形　名	取付ネジ
LB-150 タイプ	32 本
LB-200 タイプ	40 本

1. 付属の取付ネジを使用して OA・EA 用のダクト接続フランジを取付ける。
2. 接続部より風漏れのないよう、アルミテープ（お客様手配）を巻き付ける。
3. ダクトはロスナイ本体に力が加わらないよう固定する。
4. 室外側ダクト（2 本) は、結露防止のため必ず断熱処理を行う。また、室内側ダクト（RA）は加湿（冷却）されて熱回収が減少してしまうため断熱処理することをお勧めします。
5. ダクトに厚さ 50mm 程度のグラスウール（吸音材）を巻き付ける。

お願い

- **夏期冷房時、ロスナイ本体が設置される雰囲気温度が高温になると予想される場合は、室内側ダクト配管にも断熱処理してください。**
- **ダクト接続をする前にダクトの中に切り粉、異物（紙・ビニールなど）が入っていないことを確認してください。**
- **定格風量の約 50% 以上でご使用ください。(異常音発生の原因になります)**
- **RA ダクト接続フランジは、はずさないでください。はずす場合は、RA 接続ダクトフランジ固定用のネジを元のもの（M4 タッピングネジの長さ 8mm 以下）をお使いください。**
- **排気側風路（RA、EA）に補助送風機を設置しないでください。ロスナイ換気、普通換気の切替動作不具合が発生するおそれがあります。**
- **下図のようなダクト工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因になります）**

●極端な曲げ　●多数の曲げ　●吐出口のすぐそばでの曲げ　●ダクト径を極端にしぼる

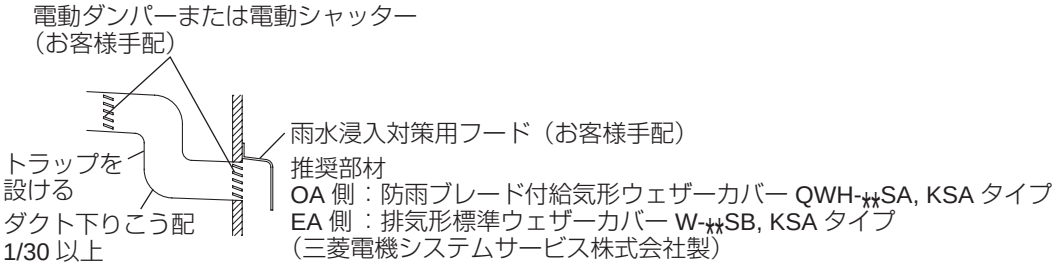


ダクト施工時の注意事項

製品本体に雨水の浸入を防ぐため、室外側（OA、EA）ダクトに対策を施してください。
雨水の浸入により機外への水漏れや製品故障のおそれがあります。

【施工例】

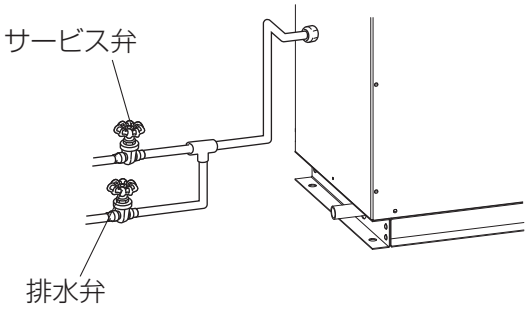
- 室外に向かって下りこう配（1/30 以上）になるように施工する。
- ダクトにトラップを設ける。
- 給・排気口に雨水浸入対策用のフード（お客様手配）を取付ける。
  推奨部材
  OA 側：防雨ブレード付給気形ウェザーカバー QWH-**SA, KSA タイプ
  EA 側：排気形標準ウェザーカバー W-**SB, KSA タイプ
  （三菱電機システムサービス株式会社製）
  総合カタログのウェザーカバー商品掲載ページのご注意もご覧ください。
- 寒冷地・外風の強い場所や建物内が負圧に設置環境ならびに霧・もやの発生しやすい場所では運転停止時に室内外の圧力差や外風により、冷気・外風・霧・もやが侵入しエアフィルター、ロスナイエレメントから水滴が垂れ、機外に水が漏れることがあります。侵入対策として、電動ダンパーまたは電動シャッター（お客様手配）を併用してください。
- 虫侵入の対策をしてください。



据付方法　つづき

給水配管・凍結防止工事

1 給水配管工事をする



換算のしかた

1Pa=1.01972 × 10^{-5}kgf/cm^2

目安として

1kgf/cm^2 ≒ 100kPa で換算してください。

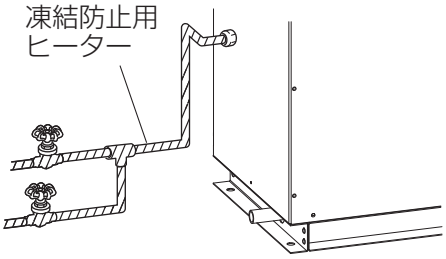
給水配管工事に際して給水配管と給水口（管用テーパおねじR1/2）との間に、屈曲・振動などを吸収するため市販の可とう性のあるフレキシブルパイプ等を使用して接続する。

- 給水口と接続の際はネジの種類に注意し、ネジの種類をあわせて工事を行う。
- 給水は、市水または上水を使用し防露工事を行う。(凍結のおそれのある場合は断熱工事を行う)
- 給水圧力は水道管に接続する場合、シスターンタンクを使用する場合 、いずれの場合も 0.05MPa ～ 0.49MPa、給水量は 450cc/ 分以上になるように設定する。
- ストレーナ近くにサービス弁、排水弁を設置して給水配管を行う。
- ストレーナへの給水は公共の水道管に直接接続することもできます。
- 加湿器への給水は公共の水道管に直接接続することもできます。
- 給水用銅管に力が加わらないよう給水配管を固定してください。
- 給水配管工事の際、切り粉などが入らないよう真水できれいに洗い流してから配管するか、配管途中に排水バルブを設け、水の白濁がなくなるまで十分予備排水を行ってください。(排水が不十分な場合は加湿エレメントの寿命がいちじるしく低下します)
- 配管工事用切削油･洗浄液が混入しないようご注意ください。(給水電磁弁やドレン皿故障を起こし、水漏れの原因となります)

お願い

- **給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が指定された配管材料を使用して施工してください。**
- **給水温度は 5℃～ 40℃としてください。**
- **排水弁およびサービス弁は点検スペースからとどく範囲に設置してください。**
- **給水口に力が加わらないよう給水配管を固定してください。**
- **給水配管およびドレン配管がメンテナンスパネル（ロスナイエレメント用および加湿用）の開閉および加湿エレメント、エリミネーターの取り出しの妨げにならないよう配管してください。**
- **軟水器は使用できません。**

2 凍結防止工事をする



給水配管に凍結防止用ヒーター（市販品) を巻き凍結防止を行う。

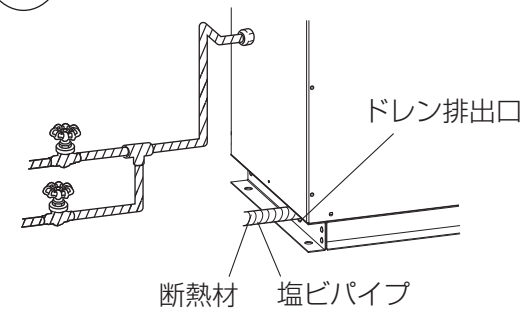
- 凍結防止用ヒーターは本体（給水口）まで巻く。
- 冬期にはヒーターの電源を必ず入れる。

⚠ 警告

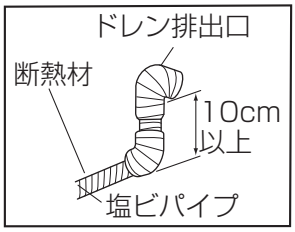
- **凍結のおそれのある地域では必ず凍結防止工事を実施する**
  （電磁弁・配管などが破裂し、水漏れの原因になります）

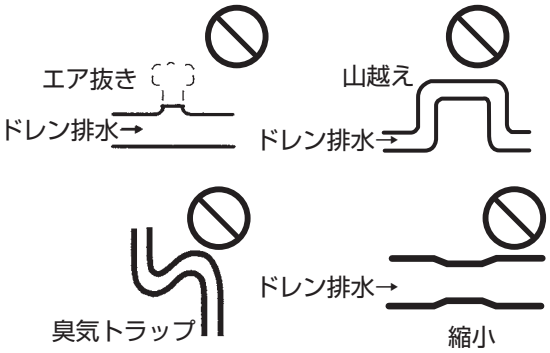
ドレン配管工事

1 ドレン配管工事をする



集合配管または直線部が短い（30cm 以下）場合



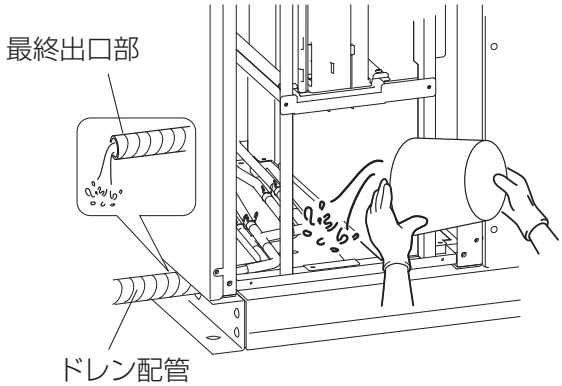


1. 管用テーパめねじ R1 鋼管または、塩ビパイプをドレン排出口に接続する。
2. ドレン配管は、ドレン排出口の根元より確実に断熱処理を行う。

お願い

- **ドレン配管から水が漏れないように工事を行ってください。**
- **ドレン配管を集合配管とする場合、集合配管につながる他製品の運転の影響で排水が戻らないようにドレン排出口にエルボを接続し、ドレン排出口より低い位置（およそ 10cm 以上）から配管を行ってください。**
- **排水が戻らないようにするため、ドレン排出口に接続するドレン配管はできるだけ直線部を長く（30cm 以上）し、ドレン配管の曲がりを 3 か所以内にしてください。**
- **配管こう配は下りこう配 1/100 以上とってください。**
- **ドレン配管は、硫黄系ガスや臭気が発生するような管や下水溝には接続しないでください。（腐食や異臭の原因となります）**
- **ドレン配管途中に水が溜まらないように工事を行ってください。**
- **ドレン配管の先端は必ず排水可能なところまで導き排水が排出できることを確認してください。**
- **左図のようなドレン配管および 1/100 こう配の中で、横引きの合流はしないでください。（排水が排出されなくなります）**
- **排水が逆流する可能性がありますので、ドレン配管の途中で内径を縮小しないでください。**
- **ドレン配管の途中にドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続してドレン排水を処理しないでください。**
- **集合配管につながる他製品の影響により、配管内部の圧力が上がらないようにご注意ください。**
- **補助送風機を使用する場合、SA（給気）側ダクトを負圧にしないようにしてください。負圧になると運転時に十分に排水がされず、水漏れ、加湿異常の原因になります。**

2 排水性の確認のしかた



1. 加湿部メンテナンスパネルをはずす。
2. ドレン皿に 3000 ～ 5000cc 注水する。
3. ドレン配管の最終出口部で排水されることを確認する。
4. 全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがないことを確認する。また、排水チューブにねじれやつぶれがないことを確認する。
5. 加湿部メンテナンスパネルを取付ける。

お願い

- **必ず排水性の確認をしてください。排水されない場合、「水もれ」、「誤検知」の原因となります。**
- **加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがあると水漏れの原因になる場合があります。必ず修正してください。**

電気工事

この製品はシステム構成により電気工事の方法が異なります。
それぞれ必要な部分の電気工事を行ってください。

⚠ 警告

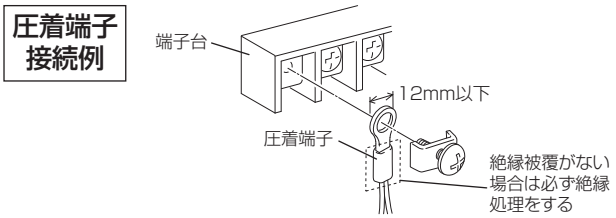
- **定格電圧、制御容量範囲内で使用する**
  （指定以外で使用すると火災や感電の原因になります）
- **端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する**
  （接続に不備があると火災のおそれがあります）
- **電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って取付けし、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する**
  （電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因になります）
- **各配線は、張力が掛からないように配線工事をする**
  （断線したり、発熱・火災の原因になります）
- **アース（D 種接地）を確実に取付ける**
  （アースを取付けないと事故や漏電のときに感電の原因になります）
- **電気工事の際は必ず分電盤のブレーカーを切る**
  （通電状態では感電やけがをすることがあります）
- **制御ボックスパネルは施工後、必ず取付ける**
  （ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります）

お願い

- 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。
- 電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。
- リモコン用・伝送線用端子台には 200V 電源を接続しないでください。（故障します）
- 配線の接続はネジの緩みがないように確実に行ってください。
- 電源線・伝送線等はメンテナンスのじゃまにならないように配線工事をしてください。
- 複数の伝送線を多芯ケーブルで配線しないでください。
- 伝送線と他の伝送線および電源線とは 50mm 以上離して配線してください。
  ※ノイズが発生し、誤動作する場合があります。
- 漏電ブレーカーの選定は誤動作防止のために最大負荷電流の 1.2 倍程度を目安にしてください。

端子台 TM1 の接続方法

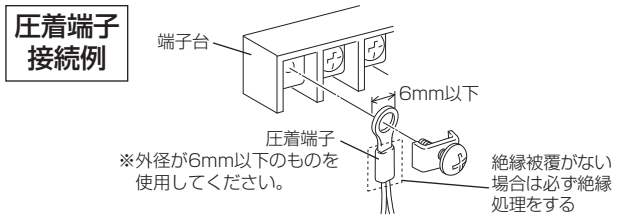
- 端子台に接続する場合は、外形が12mm以下のM5圧着端子（丸形）などを使用して確実に接続してください。
- PVC線等の単線は利用できません。
- 端子台のネジは2～2.5N・mより大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
- 絶縁処理に不備がある場合、芯線どうしが接触して短絡するおそれがあります。



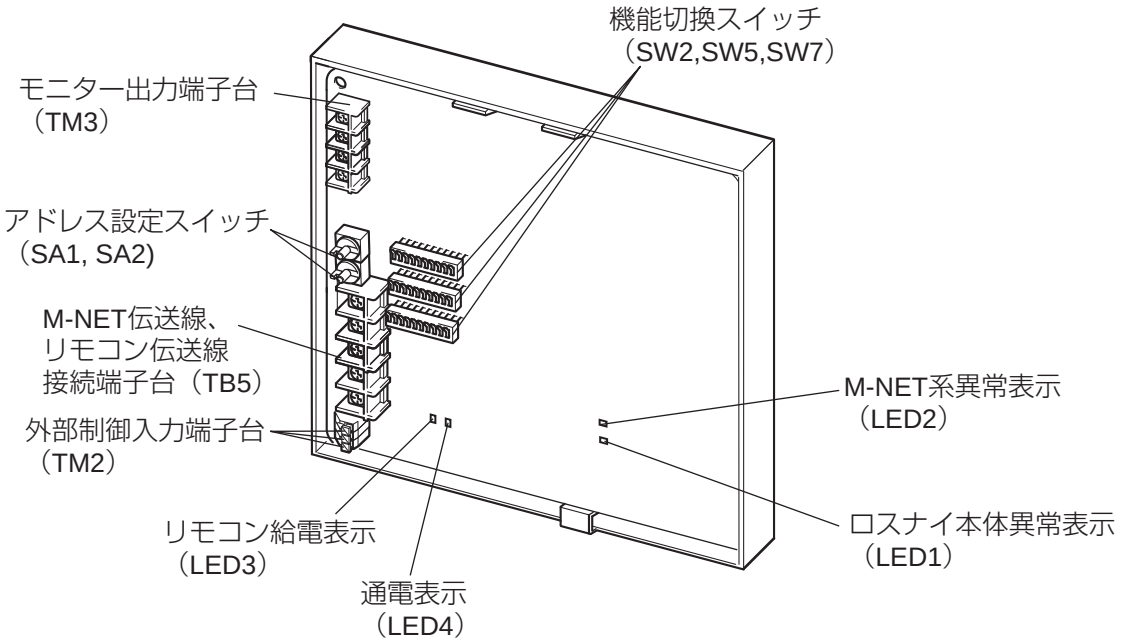
端子台 TB5, TM3 の接続方法

禁止 200V 電源を絶対に接続しないでください

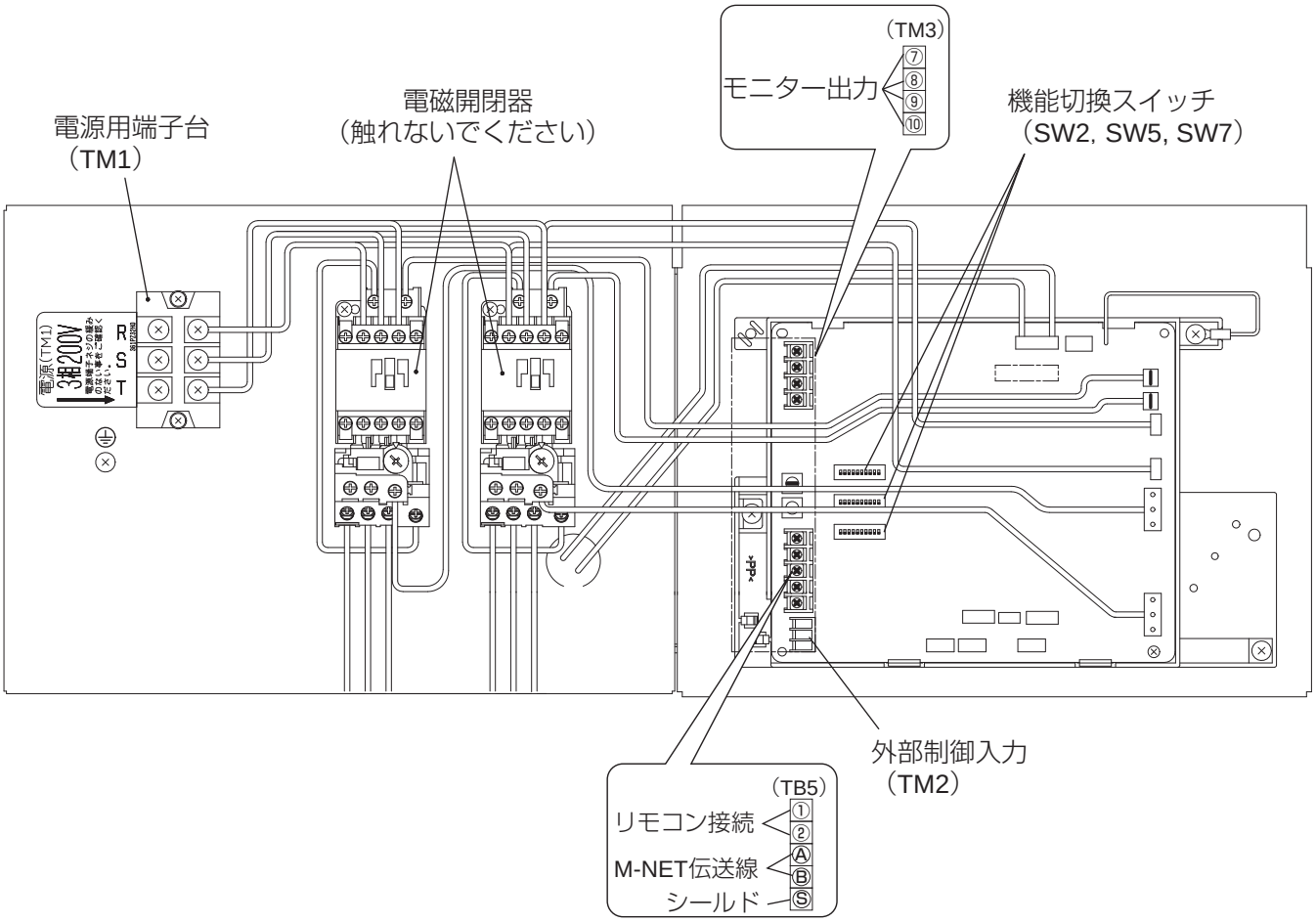
- 端子台に接続する場合は、外形が6mm以下のM3圧着端子（丸形）などを使用して確実に接続してください。
- PVC線等の単線は利用できません。
- 端子台のネジは0.5N・mより大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
- 絶縁処理に不備がある場合、芯線どうしが接触して短絡するおそれがあります。



《制御回路部のなまえ》



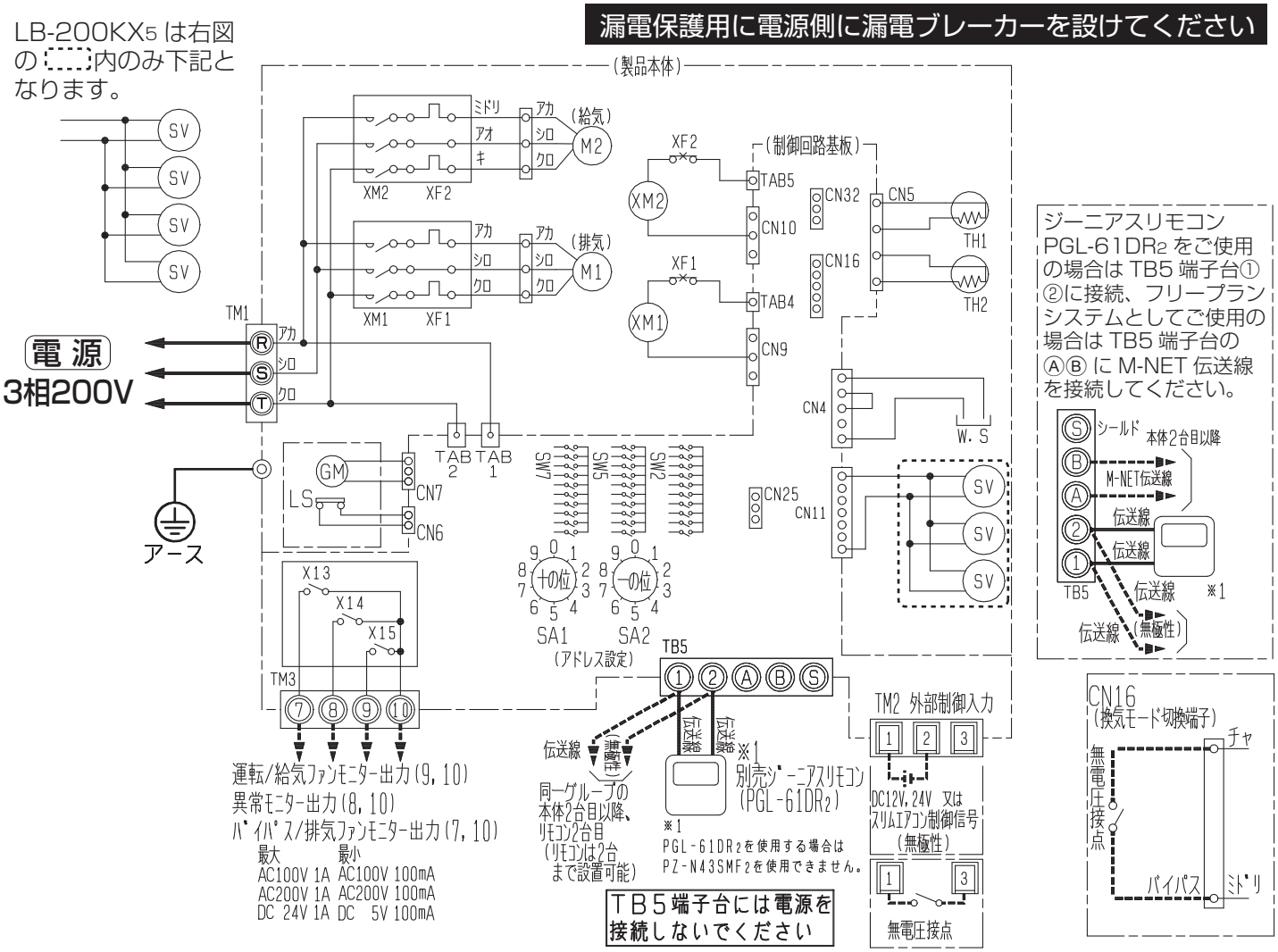
制御ボックス内の名称



電気工事　つづき

■結線図　※太線および破線部分は有資格者である電気工事士にて施工してください

※図は LB-150KX5 を示す



■記号説明

記号	名　称	記号	名　称	記号	名　称
TB5	端子台（M-NET 伝送線，ジーニアスリモコン等接続）	W.S	水検知センサー	CN4	コネクター（水検知センサー接続用）
TM1	端子台（AC200V 入力）	SV	給水電磁弁	CN5	コネクター（外気･還気サーミスター接続用）
TM2	端子台（外部制御入力）	TAB4	ファストン端子（排気用送風機駆動用）	CN6	コネクター（ダンパーリミットスイッチ接続用）
TM3	端子台（モニター出力）	TAB5	ファストン端子（給気用送風機駆動用）	CN7	コネクター（ダンパー接続用）
SW2	機能切換スイッチ	TH1	サーミスター（外気温度検知）	CN9	コネクター（排気用送風機駆動用）
SW5	機能切換スイッチ	TH2	サーミスター（還気温度検知）	CN10	コネクター（給気用送風機駆動用）
SW7	機能切換スイッチ	TB5 A, B	M-NET 伝送線端子（無極性）	CN11	コネクター（給水電磁弁接続用）
SA1	アドレス設定スイッチ（10 の位）	TB5 S	シールド	CN16	コネクター（換気モード切換入力）
SA2	アドレス設定スイッチ（1 の位）	TB5 1, 2	リモコン伝送線端子（無極性）	CN25	コネクター（外部加湿･ヒューミディ入力）
GM	バイパスダンパー用電動機	XM1	電磁接触器（排気用送風機）	CN32	コネクター（遠方入力）
LS	リミットスイッチ	XM2	電磁接触器（給気用送風機）	X13	リレー接点（バイパスモニター出力用）
TAB1	ファストン端子（端子台接続用）	XF1	過電流リレー（排気用送風機）	X14	リレー接点（異常モニター出力用）
TAB2	ファストン端子（端子台接続用）	XF2	過電流リレー（給気用送風機）	X15	リレー接点（運転モニター出力用）
M1	送風機用電動機（排気）				
M2	送風機用電動機（給気）				

共通工事

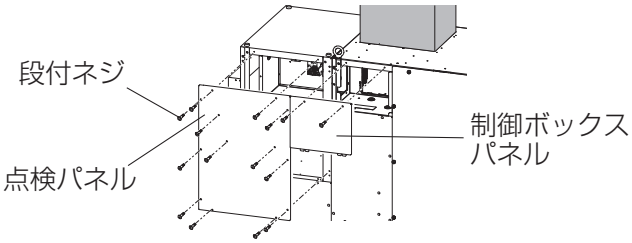
1 脚立の用意

脚立を用意する。

お願い

- 足元の不安定な状態での部品の着脱は行わないでください。

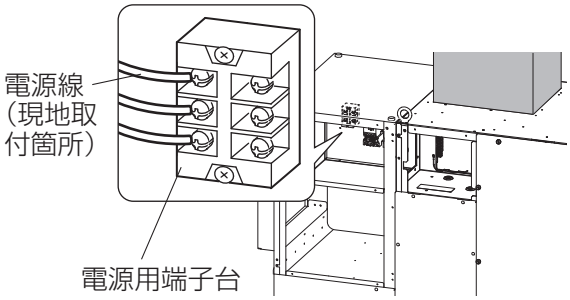
2 制御ボックスパネル・点検パネルを取りはずす

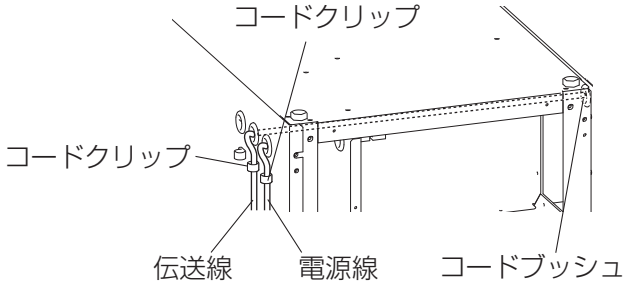


1. 制御ボックスパネルの段付ネジ（2 本）を取りはずし、上側に持ち上げてはずす。
2. 点検パネルの段付ネジ（13 本）を取りはずし、上側に持ち上げてはずす。

- 後で取付けるまでなくさないよう保管してください。

3 電源線を接続する





1. 電源線（単線 ϕ 1.6 ～ ϕ 2.0 例 VVF）を電源用端子台に確実に差し込み、端子台のネジで固定する。
2. コードクリップのネジ（1 本）をはずし、コードクリップを取りはずす。
3. 電源線をコードクリップで固定する。
4. 伝送線をコードクリップで固定し元の位置にネジ止めする。

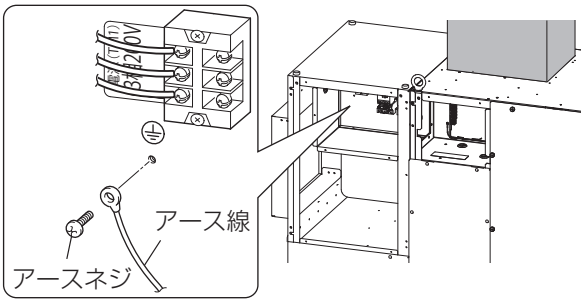
- 伝送線は、点検パネル空間内の真中のリード線が通っているコードブッシュに通して基板の端子台に接続する。

お願い

- 電源線と伝送線は誤動作防止のため 50mm 以上離して配線してください。
- 接続後、電源線および伝送線を引っ張って抜けないことを確認してください。
- 電源 (TM1) への接続は確実に行ってください。欠相すると電動機の故障の原因になります。
- 試運転の項 (31 ページ) にて回転方向が正転であることを確認してください。
- 端子台のネジは 2 ～ 2.5N・m で締めてください。2.5N・m より大きなトルクで締めると端子台が破損するおそれがあります。
- 電源線の接続方法は 12 ページを参照してください。

4 アース工事をする

アース線は、必ずアース専用端子に接続する。



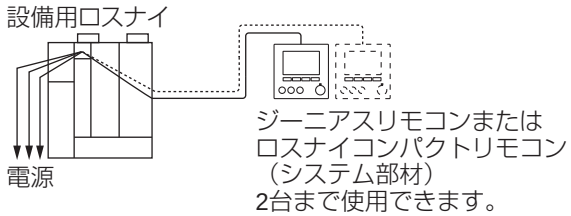
電気工事　つづき

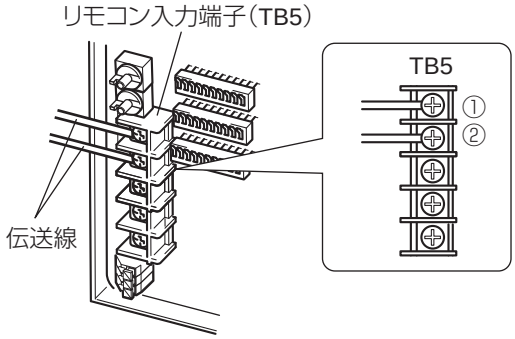
システム構成

……必要なところを接続してください。

1 ジーニアスリモコン（PGL-61DR2）、ロスナイコンパクトリモコン（PZ-N43SMF2）と接続する場合
2 「空調機などの外部機器」と連動する場合
3 外部機器からの信号でロスナイの加湿器を運転する場合
4 ビル管理システム等パルス出力機器と連動する場合
5 ロスナイを複数台運転する場合
6 複数の外部機器と連動する場合
7 異常信号・普通換気（バイパス換気）信号を取り出す場合
8 電動ダンパーなどと接続したり、運転信号を取り出す場合
9 ヒューミディスタット等と接続する場合
10 外部で普通換気（バイパス換気）にする場合
11 遠方/手元切換・発停入力（レベル信号）を使用する場合
12 三菱フリープラン空調機または、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合

1 ジーニアスリモコン（PGL-61DR2）、ロスナイコンパクトリモコン（PZ-N43SMF2）と接続する場合





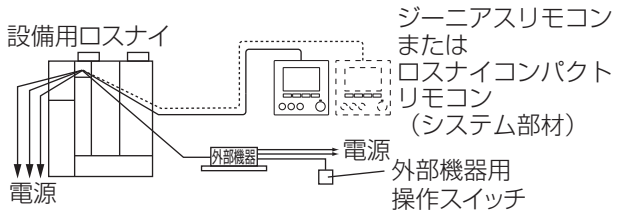
ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンからの伝送線をリモコン伝送線接続端子（TB5）の①②（無極性）に確実に接続する。
線種：2 芯シース付ケーブル
線径：0.3mm^2
以下の別売ケーブルが使用できます。
PAC-YT81HC（10m）, PAC-YT82HC（20m）

- リモコンは 2 台まで接続することができます。2 台目も同様に接続してください。
- 種類の異なるリモコンを併用することはできません。2 台接続する場合は、同じ種類のリモコンをご使用ください。
- リモコン伝送線の総延長は 200m（ロスナイーリモコン間、ロスナイーロスナイ間、リモコンーリモコン間の総合計）以内としてください。

お願い

- 電源線および M-NET 伝送線を接続しないように注意してください。
- リモコン伝送線の接続方法は 12 ページを参照してください。

2 「空調機などの外部機器」と連動する場合



(1) 外部機器の出力信号線を外部制御入力端子（TM2）に接続します。

外部機器の出力信号のタイプにより接続方法が異なります。

(2) パルス入力スイッチ（SW2-2）が「OFF」になっているか確認します。（出荷状態は「OFF」に設定されています）

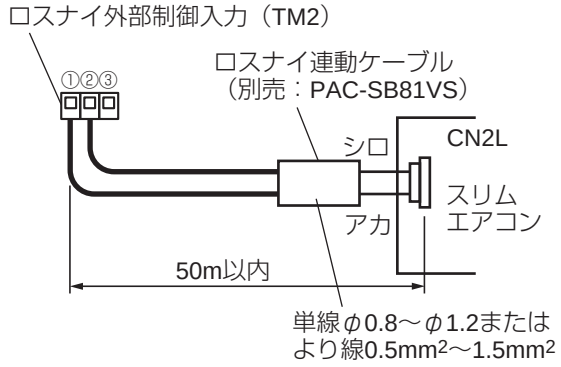
お願い

- **線の抜差時、端子を 0.5N・m より大きな力で押さえないでください。**

メモ

- ジーニアスリモコンとロスナイコンパクトリモコンは併用できません。

当社製スリムエアコン＋ MA リモコンのとき



ロスナイ連動ケーブルのコネクター側を室内ユニット基板上の CN2L に接続し、リード線側をロスナイ外部制御入力端子（TM2）の①②に接続する。（無極性）

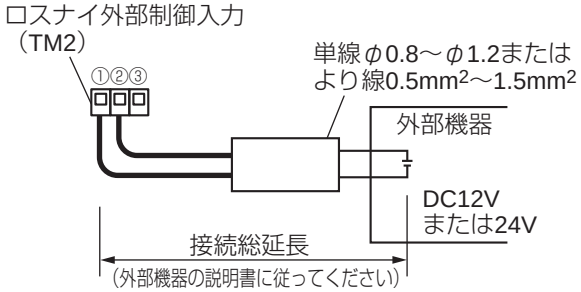
- ロスナイ連動ケーブルと電源線は、誤動作防止のため、50mm 以上離して配線してください。

メモ

- このシステムではロスナイのジーニアスリモコンおよびロスナイコンパクトリモコンは使用できません。
- ロスナイの運転／停止および風量の切換えはスリムエアコンの MA リモコンにて行ってください。
- 換気モードは「自動換気切換モード」になります。
- ロスナイを三菱ビル空調管理システム（MELANS）に接続することはできません。
- スリムエアコン 1 台とロスナイ 1 台の連動が可能です。（複数台の空調機との連動はできません）
- スリムエアコンが暖房運転のとき、加湿器が運転します。

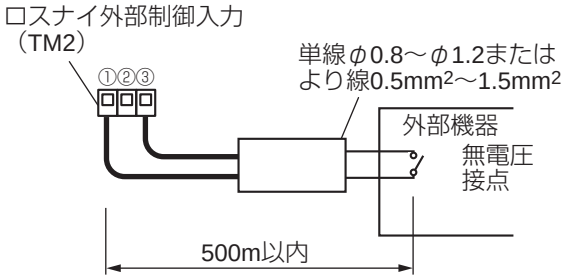
外部機器の運転信号が有電圧 DC12V または 24V のとき

- お客様手配の伝送線を介して外部機器からの運転信号を外部制御入力端子（TM2）の①②に接続する。（無極性）
  DC12V または DC24V 入力時運転します。
  ON 時間および OFF 時間は 10 秒以上にしてください。



外部機器の運転信号が無電圧接点のとき

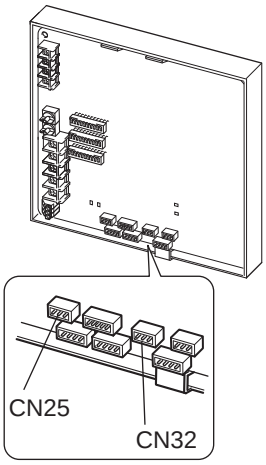
- お客様手配の伝送線を介して外部機器からの運転信号を外部制御入力端子（TM2）の①③に接続する。
  接点 ON（閉）時運転します。
  ON 時間および OFF 時間は 10 秒以上にしてください。



お願い

- **無電圧接点にフォトカプラ等の有極性接点を使用する場合は⊕側を③に⊖側を①に接続してください。**

3 外部機器からの信号でロスナイの加湿器を運転する場合



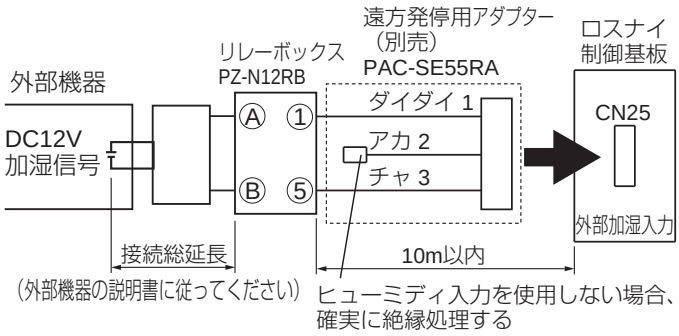
回路基板コネクター CN25 に別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を使用して①ダイダイ、③チャに外部機器の信号を入力する。
複数のロスナイを制御する場合は、5 項を参照して親機に信号を入力してください。

お願い

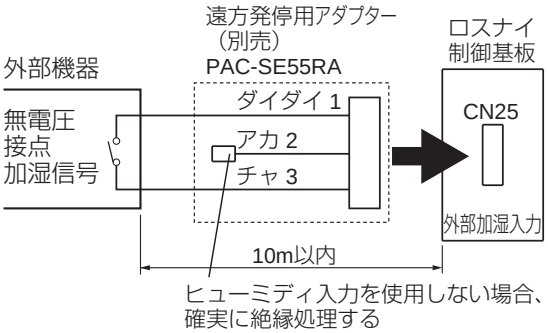
- CN25 と CN32 は同一形状のため、間違えないように接続してください。
- CN32 も使用する場合は、外部機器を CN32 側のリード線に接続しないように注意してください。

外部機器の信号が有電圧 DC12V のとき

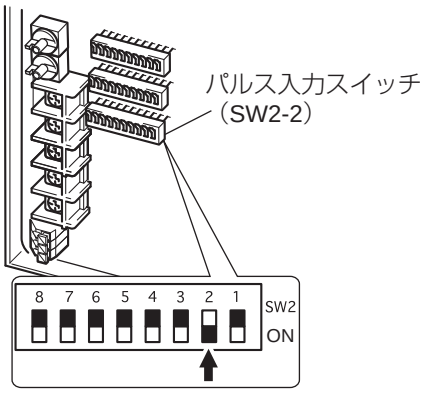
- 外部機器の加湿信号をお客様手配の伝送線を介して取り出し、更にシステム部材のリレーボックス（PZ-N12RB）を介して遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）に接続する。



外部機器の信号が無電圧接点のとき



4 ビル管理システム等パルス出力機器と連動する場合



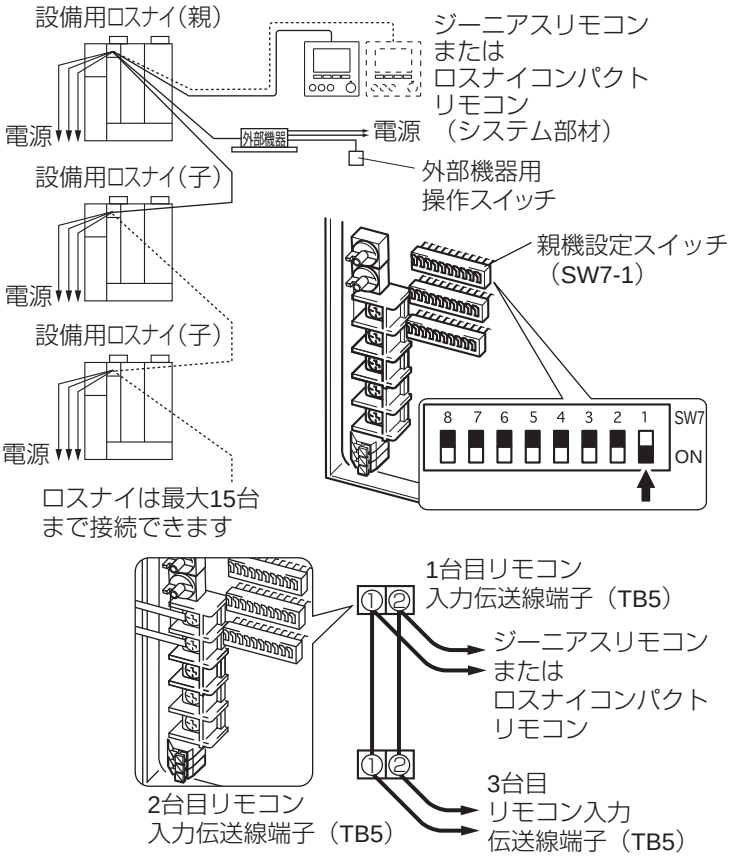
(1) パルス入力スイッチ（SW2-2）を「ON」にします。（機能設定 1「パルス入力の設定」参照）
(2) ビル管理システム等のパルス信号出力を外部制御入力端子（TM2）に接続します。

パルス信号のタイプにより接続方法が異なります。

2「外部機器の運転信号が有電圧のとき」または、「外部機器の運転信号が無電圧接点のとき」を参照してください。

- パルス幅は 200msec 以上必要です。
  OFF 時間は 10 秒以上としてください。
- ジーニアスリモコンを使用時はリモコンからも設定できます。パルス信号が入力されるごとに、運転 / 停止が反転します。

5 ロスナイを複数台運転する場合



(1) リモコン伝送線接続端子（TB5）の①②（無極性）をロスナイ 1 台目から 2 台目へ、2 台目から 3 台目へ…最大 15 台までを伝送線で接続する。
　線種：2 芯シース付ケーブル
　線径：0.3mm2

(2) 外部機器と連動する場合（**2** 項または **4** 項）、外部信号を入力するロスナイの親機設定スイッチ（SW7-1）を「ON」に切換えます。

お願い

- 電源線および M-NET 伝送線を接続しないようにしてください。
- リモコン伝送線の接続方法は 12 ページを参照してください。

メモ

- 親機設定のロスナイは 1 台のみとしてください。親機設定のロスナイのみ外部機器の出力信号・パルス信号の接続ができます。
- 外部機器の信号を入力しない場合は、ロスナイ複数台運転であっても親機設定は必要ありません。
- 各ロスナイはそれぞれに電源を接続してください。

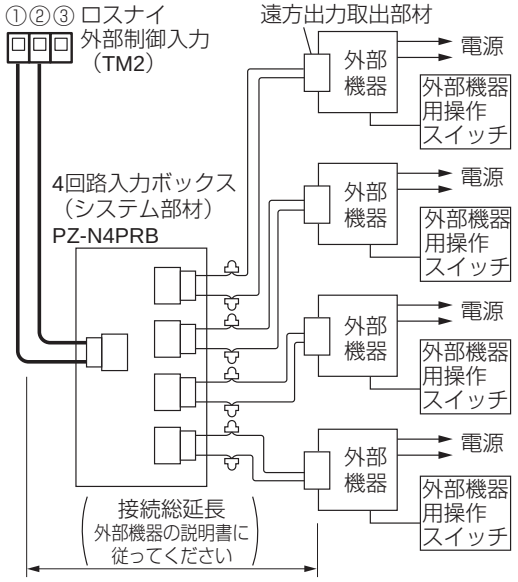
6 複数の外部機器と連動する場合

当社製スリムエアコンの DC12V シリアル信号は複数台運転できませんので、遠方出力取出部材を介して無電圧 a 接点信号を利用してください。

お願い ● 線の抜差時、端子台を 0.5N より大きな力で押さえないでください。

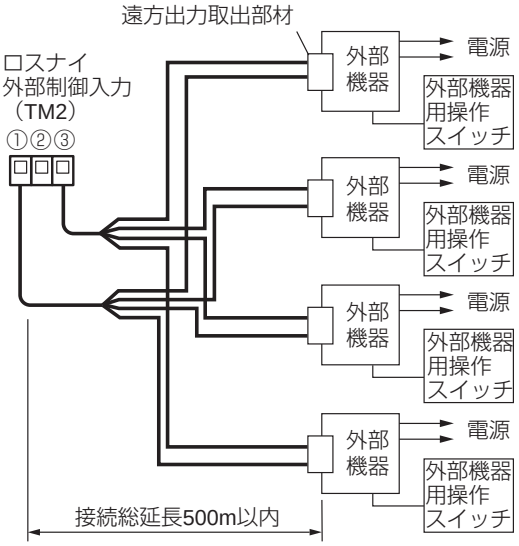
外部機器の運転信号が有電圧 DC12V のとき

- システム部材の 4 回路入力ボックス（PZ-N4PRB）を使用して、外部制御入力端子（TM2）の①②に接続する。（無極性）



外部機器の運転信号が無電圧接点のとき

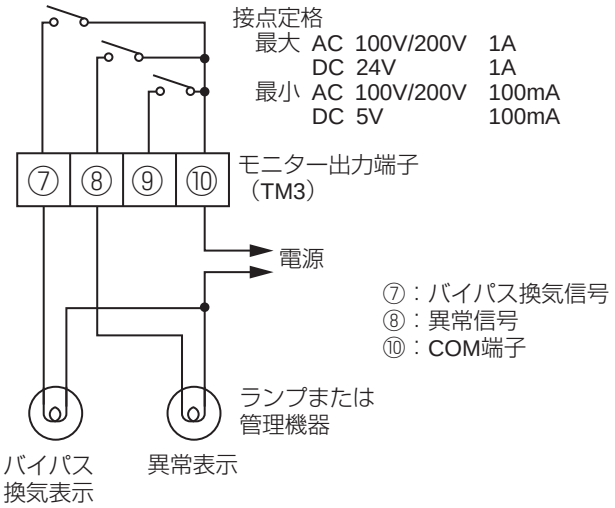
- 無電圧接点で遠方出力取出部材を介して外部制御入力端子（TM2）の①③に接続する。



お願い

- **無電圧接点にフォトカプラ等の有極性接点を使用する場合は⊕側を③に⊖側を①に接続してください。**

7 異常信号・普通換気（バイパス換気）信号を取り出す場合



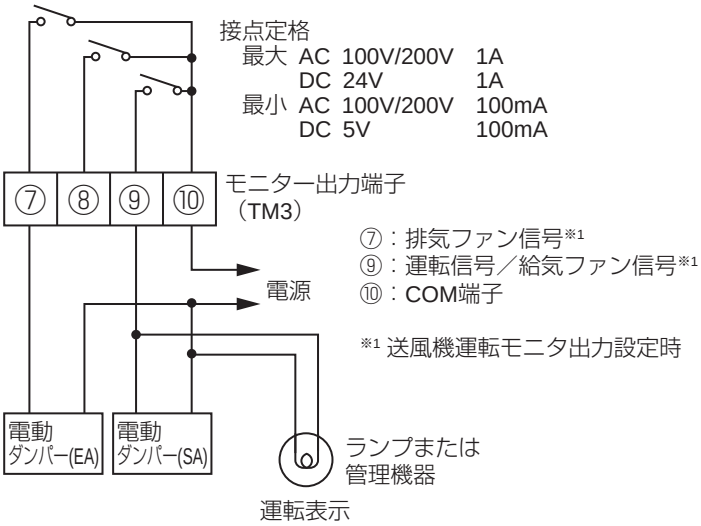
結線図を参照してモニター出力端子（TM3）の⑦⑩または⑧⑩に接続する。
排気ファンモニターとして使用する場合は、バイパス換気信号は取り出せません。

適用線種（推奨）：
単線φ 0.8 ～φ 1.2 またはより線 0.5mm² ～ 1.5mm²

お願い

- 端子台のネジは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
- 手元リモコン、システムコントローラを使用しない場合、モニター出力端子（TM3）の⑧⑩を使って異常信号を取り出せるようにしてください。
- 端子台 1 か所に 2 本以上接続する場合は、圧着端子などを使用して確実に接続してください。

8 電動ダンパー等と接続したり、運転信号を取り出す場合



結線図を参照して電動ダンパーからの電源線をモニター出力端子（TM3）の⑦⑩、⑨⑩に接続し、出力を設定してください
※電動ダンパーを接続する場合は、機能設定の変更が必要です。設定方法は、機能設定 **5**「モニター出力設定」を参照してください。

適用線種（推奨）：
単線φ 0.8 ～φ 1.2 またはより線 0.5mm² ～ 1.5mm²

お願い

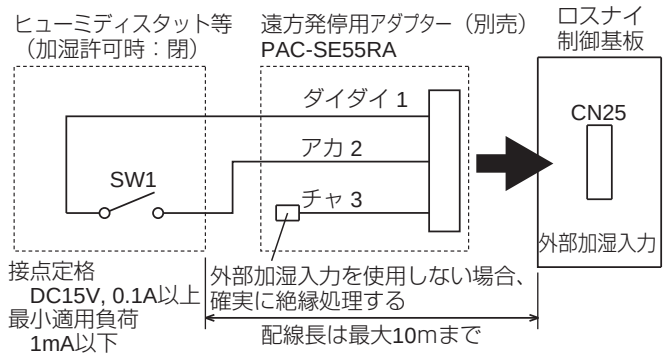
- 端子台のネジは 0.5N・m より大きなトルクで締めないでください。基板が破損するおそれがあります。
- 端子台 1 か所に 2 本以上接続する場合は、圧着端子などを使用して確実に接続してください。
- 電動ダンパー、補助送風機を設置する場合は、設置する風路に合わせて送風機運転モニター出力に設定を変更してください。運転モニター出力（工場出荷時）で使用した場合、加湿エレメントの乾燥時間で十分な乾燥を行うことができません。
- 加湿準備運転時は給気送風機が停止するため電動ダンパー等は給排個別の結線を実施してください。

メモ

- 運転モニター出力として使用する場合、外部入力信号に対する応答時間は、下表のようになります。

外部信号形態	応答時間
レベル信号	最大 7 sec
パルス信号	最大 200 msec

9 ヒューミディスタット等と接続する場合



回路基板コネクター CN25 に別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を使用して、①ダイダイ、②アカにヒューミディスタット等を接続する。

※ ジーニアスリモコン使用の場合、「加湿自動」選択時のみ本機能は有効になります。

※ 機能設定 13「ヒューミディスタット入力設定」の設定が必要になります。

※ 複数のロスナイを制御する場合について

・ジーニアスリモコン使用時

5 項を参照して親機に信号を入力してください。

・ジーニアスリモコン未使用時

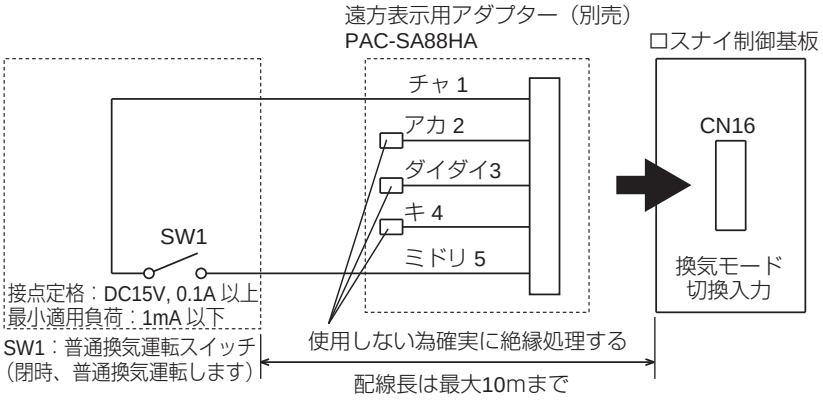
ロスナイ 1 台ずつに信号を入力してください。（入力信号 SW1 を複数のロスナイで共用することはできません）

お願い

- CN25 と CN32 を間違えないように注意してください。

10 外部で普通換気（バイパス換気）にする場合

コネクター（換気モード切換入力）CN16 へ別売の遠方表示用アダプター（PAC-SA88HA）を差し込んで結線する。



SW1 ON 時はリモコンの設定に関係なくロスナイの換気モードは普通換気となります。

※ 外気温度が 8℃以下のときは熱交換換気となります。

※ 複数のロスナイを制御する場合について

・ジーニアスリモコン使用時

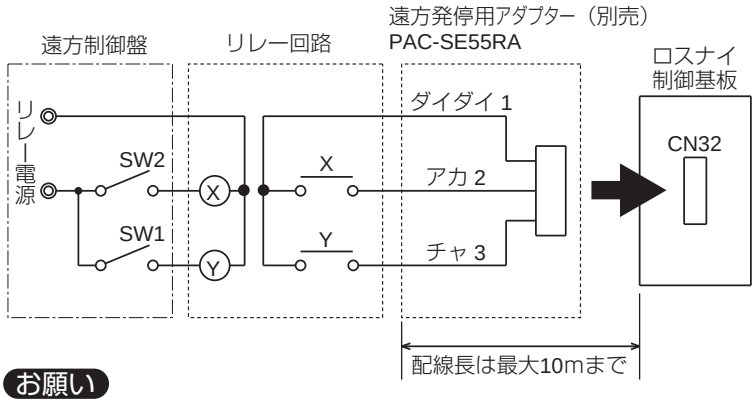
5 項を参照して親機に信号を入力してください。

・ジーニアスリモコン未使用時

ロスナイ 1 台ずつに信号を入力してください。（入力信号 SW1 を複数のロスナイで共用することはできません）

11 遠方 / 手元切換・発停入力（レベル信号）を使用する場合

ロスナイ制御基板上の CN32 へ別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を差し込む。複数のロスナイを制御する場合は 5 項を参照して親機に信号を入力してください。



- SW1：ON 時はジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンでの運転 / 停止ができません。
- SW2：SW1 ON 時、SW2 の ON でロスナイ運転、SW2 の OFF でロスナイ停止ができます。

SW1：遠方／手元切換スイッチ

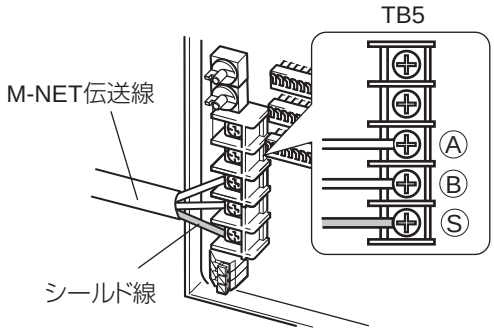
SW2：発停スイッチ

X, Y：リレー（接点定格 DC15V, 0.1A 以上、最小適用負荷 1mA 以下）

お願い

- 緊急停止の用途など、停止中の送風機運転を禁止したい場合、緊急停止設定スイッチ（SW7-5）を「ON」にしてください。停止信号（SW1：ON かつ SW2：OFF）の入力時に加湿エレメント乾燥運転、ナイトパージによる自動運転が禁止されます。
- 三菱ビル空調管理システムで集中管理機器（システムコントローラなど）を設置する場合、緊急停止は集中管理機器から行ってください。
- CN32 と CN25 を間違えないように注意してください。

12 三菱フリープラン空調機または、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合

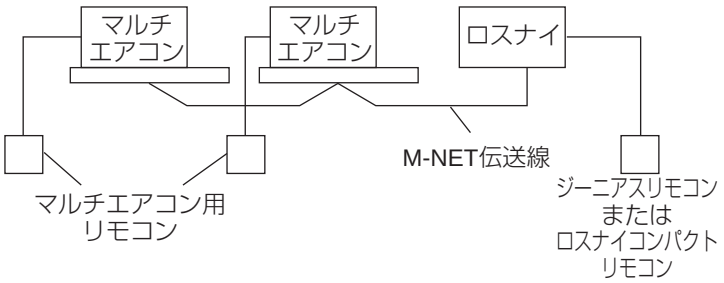


アドレス設定が必要です。（「機能設定」を参照）
三菱マルチエアコンまたは三菱ビル空調管理システム（MELANS）からの伝送線を M-NET 伝送線接続端子（TB5）の ⒶⒷ（無極性）に確実に接続する。
種類：シールド線（CVVS・CPEVS・MVVS)
線径：1.25mm²
最大給電距離：200m
（伝送線用給電ユニット、マルチエアコン室外ユニットなど M-NET 伝送線への給電元から最も遠いロスナイまでの距離）
最遠端距離：1km
（M-NET 伝送線上（マルチエアコン室外ユニットを経由した集中管理系、室内外系を含む）で最も遠い機器（ロスナイ、マルチエアコン、システムコントローラなど）間の距離）
その他にも設計上の制約があります。詳細は「空調冷熱ネットワーク設計マニュアル」、「三菱ロスナイ技術資料」をご確認ください。（三菱電機株式会社ホームページ「WIN²K」からダウンロードしてください）

お願い
- M-NET 伝送線には必ずシールド線を使用し、シールド処理を行ってください。
- 電源線およびジーニアスリモコン、ロスナイコンパクトリモコン伝送線を接続しないように注意してください。
- M-NET 伝送線の接続方法は 12 ページを参照してください。

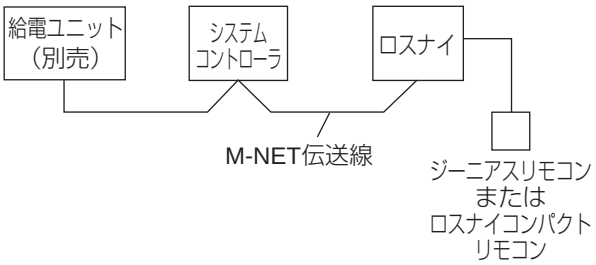
三菱マルチエアコンと連動する場合

- ロスナイ 1 台につき最大 16 台のマルチエアコンと連動することができます。
- システムコントローラまたはマルチエアコンのリモコンから、マルチエアコンとロスナイの連動設定を行ってください。
- ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンを併用することができます。
- 複数のロスナイを連動させる場合、5 項を参照して親機設定を行ってください。また、マルチエアコンとの連動設定は親機と行ってください。



ロスナイを集中管理する場合

- 1 グループ 15 台、最大 50 台のロスナイを集中管理することができます。
- システムコントローラからグループ設定を行ってください。
- ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンを併用することができます。
- 別売の伝送線用給電ユニットが必要となります。
  ※ システムコントローラに給電機能が内蔵されている場合など、システム構成によって不要となる場合があります。



メモ
- 下記の緊急停止入力による停止では、加湿エレメント乾燥機能等によりファンが回る場合があります。
  ・ON/OFF リモコン（PAC-YT40ANR-W1）
  ・コントローラ下位設定のシステムリモコン（PAC-SF50AT（1））

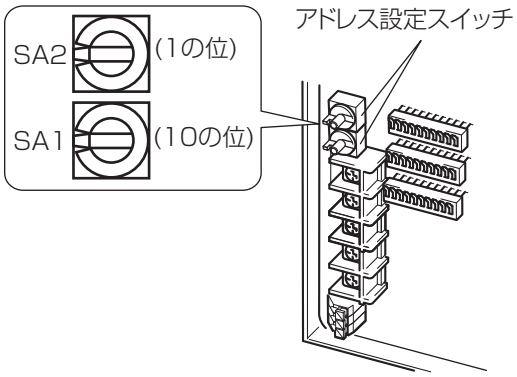
機能設定

アドレスの設定

三菱マルチエアコンと連動する場合、三菱ビル空調管理システム（MELANS）と接続する場合はアドレス設定が必要です。

- アドレスは「1 ～ 50」の範囲で他の機器（ロスナイ、マルチエアコンなど）と重複しないよう、ロスナイ１台につき１つの番号を割り当ててください。
- 複数のロスナイでグループを作成する場合、同じグループのロスナイは連番でアドレスを割り当ててください。またグループ内で最も若いアドレスを割り当てたロスナイが、グループ内での親機となります。
- 以下の場合、「電気工事」5 項に従いロスナイ同士のリモコン伝送線接続端子をつないでください。
  a. ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンで複数のロスナイを操作する場合
  b. マルチエアコンと連動して複数のロスナイを操作する場合
  c. 外部機器と連動（TM2 1 2 または 1 3 をご使用の場合）して複数のロスナイを操作する場合
  d. 外部加湿入力（CN25）、遠方入力（CN32）で複数のロスナイを操作する場合
  e. ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンを接続せず、空調冷熱総合管理システム（AE-200J）を使用してナイトパージを行う場合
  ※ 三菱ビル空調管理システムのシステムコントローラでのみロスナイの操作を行うなど、上記に該当しない場合、リモコン伝送線接続端子の接続は不要となります。
  ※ 上記 b. でご使用の場合、グループ内で最も若いアドレスを割り当てた親機とマルチエアコンを連動させてください。
  ※ 上記 c. および d. でご使用の場合、グループ内で最も若いアドレスを割り当てた親機に信号を入力してください。
- 三菱ロスナイ技術資料、およびご使用の集中管理機器（システムコントローラなど）の据付工事説明書をあわせてご確認ください。

（グループとは）
三菱ビル空調管理システム上で機器を管理するための単位となります。
集中管理機器（システムコントローラなど）から同じグループに設定した機器を同時に操作することができます。
・１つのグループには最大１６台までの機器を登録することができますが、グループ内にはロスナイ、マルチエアコンなど異なる製品を登録することはできません。
・複数のロスナイをジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンで操作する場合など、リモコン伝送線接続端子をつないだロスナイは、三菱ビル空調管理システム上でも同じグループとして登録してください。
・ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンをご使用の場合、１つのグループは最大１５台までとなります。



必ず元電源を切った状態で行ってください。

アドレス設定をする場合は下記により行ってください。

1. 制御ボックスパネルをはずす。
2. 基板上のアドレス設定スイッチを、マイナスドライバー等で回す。

- （SA1）は 10 の位、（SA2）は 1 の位を示します。
- 工場出荷時は「00」です。

※ ジーニアスリモコンをご使用の場合、アドレス設定を変更するとジーニアスリモコンから行った機能設定の内容が工場出荷値にリセットされます。アドレス設定は、ジーニアスリモコンからの機能設定前に行ってください。

機能切換スイッチ（SW2, 5, 7）の切換え

基板上の機能切換スイッチ（SW2, 5, 7）にて必要な機能設定を行います。
＊の機能はジーニアスリモコンからも設定できます。あとからジーニアスリモコンで機能を切換えた場合、「本体回路 SW 優先」以外を設定した場合はジーニアスリモコンから設定に従って動作します。

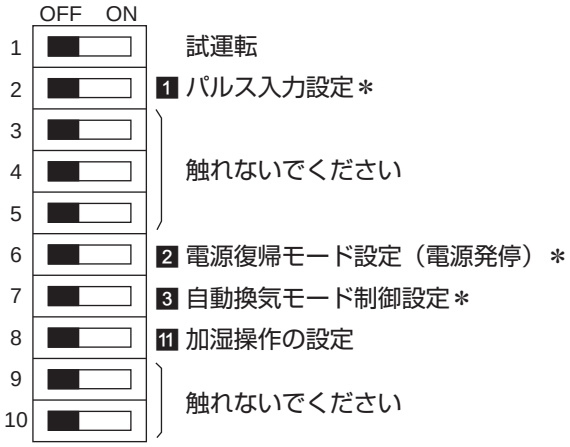
※ ジーニアスリモコンからの機能設定方法は、ジーニアスリモコンの据付工事説明書を参照してください。ただし、下記については本製品でご使用の場合、設定内容が異なります。
・「機能設定 No.29」の「24 時間換気設定」は使用できません。
・「機能設定 No.30」の「ナイトパージ設定 / ナイトパージ初期風量」で設定値は「0：無効（工場出荷時）」、「1：有効」の選択となります。ナイトパージをご使用の場合は、設定値を「1：有効」にしてください。
・「機能設定 No.50」の「一括リセット」を行った場合、「機能設定 No.1 ～ 99」の設定値がすべて工場出荷時の値に戻ります。

お願い

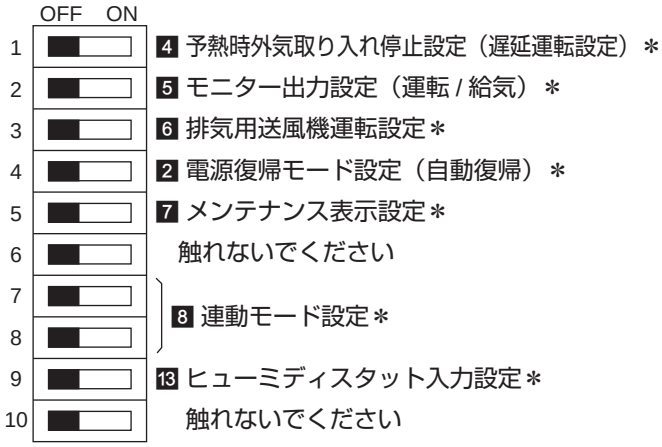
- 工事終了後、機能設定によりロスナイの機能を変更した場合は、必ず設定内容を各表のチェック欄に○印などで記入して確認してください。（ジーニアスリモコンから機能設定した場合、ジーニアスリモコン故障時にわからなくなってしまいます）
  本体回路基板を交換したときは、ジーニアスリモコンの機能設定を含め、交換前と同じ設定にしてください。

機能設定　つづき

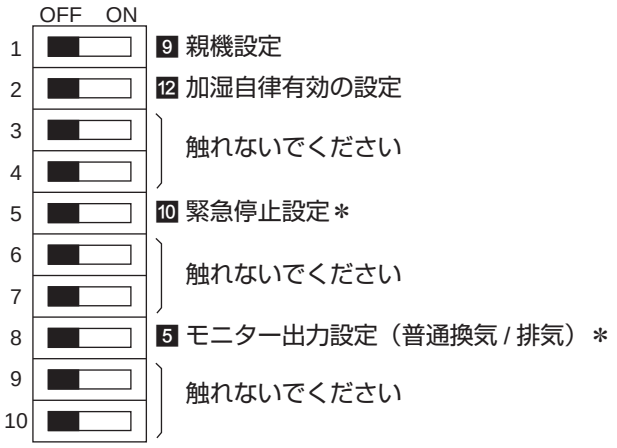
（SW2）



（SW5）



（SW7）



下記機能はジーニアスリモコンからのみ設定可能です。

3 自動換気モード制御設定

・自由設定モード
・室内外温度差設定（自由設定モード時）
・外気温度下限値設定（自由設定モード時）
・室内温度下限値設定（自由設定モード時）

7 メンテナンス表示設定

・ロスナイエレメントメンテナンス表示
・加湿エレメントメンテナンス表示

1 パルス入力設定

ビル管理システム等からのパルス信号機器を外部入力に接続して利用する場合に設定します。

「パルス信号入力あり」でご使用の場合は、以下の機能が使用できません。

a. 予熱時外気取り入れ停止設定（4 項をご参照ください）
b. 連動モード設定（8 項をご参照ください）

本体回路			ジーニアスリモコン			モード
	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
SW2	2 ■□		28	1		パルス信号入力なし（工場出荷時）
	2 □■			2		パルス信号入力あり

※ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。

2 電源復帰モード設定

ロスナイに供給する元電源（200V）の入・切により運転・停止を行う場合は、電源発停に設定します。また停電復帰後、元の運転状態に復帰させたい場合は、自動復帰に設定します。

本体回路			ジーニアスリモコン			モード	動　作
	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW2-6 SW5-4	2-6 ■□ 5-4 ■□		5	1		停止復帰（工場出荷時）	電源投入時、ロスナイは停止します。
	2-6 □■ 5-4 ■□			2		電源発停	電源投入時、ロスナイは運転します。
	2-6 ■□ 5-4 □■			3		自動復帰	電源投入時、ロスナイは停電前の運転状態に復帰します。

※ ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。
※ 電源発停機能を使用する場合、加湿エレメント乾燥運転機能が働きません。加湿エレメント内に水分を残したまま長時間放置すると、腐敗臭を発生するおそれがあります。長時間製品を使用しない場合は、給水を止め製品を運転させ、加湿エレメントの乾燥（ロスナイ換気で約 3.5 時間以上）を行ってください。
※ 手元リモコンを設置しない場合、運転異常時に点検ナンバーが表示されません。モニター出力端子（TM3）の⑧⑩を使って異常信号を取り出せるようにしてください。

3 自動換気モード制御設定

ロスナイ本体内部に組み込まれた 2 つの温度センサーにより室内と外気の温度を検知し、自動的に「ロスナイ換気」と「普通換気（バイパス換気）」を切り換える自動換気モードの動作条件を設定します。
中間期などに普通換気（バイパス換気）で積極的に外気冷房を実施したい場合は、外気冷房優先モードに設定してください。普通換気を実施する条件（室内外温度差、外気温度、室内温度）を自由に設定したい場合は、ジーニアスリモコンで自由設定モードに設定してください。

メモ

空調機と連動運転している場合で、空調機が暖房または送風のときは、本設定によらずロスナイ換気固定となります。冷房のときは、室内温度下限値が空調機の設定温度となります。以下でご使用の場合が該当します。
a. 三菱マルチエアコンと連動運転中
b. 三菱スリムエアコンとロスナイ連動ケーブルで連動運転中

■自動換気モード設定

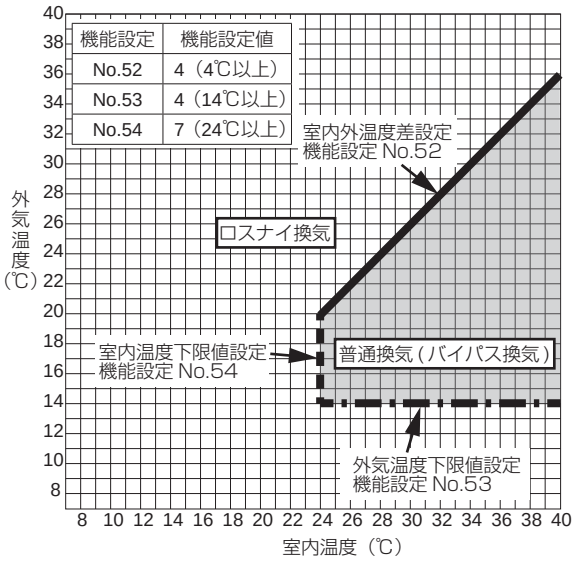
本体回路			ジーニアスリモコン			動　作
	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
SW2	7 ■		51	1		通常モード（工場出荷時）
	7 ■			2		外気冷房優先モード
	-	-		3		自由設定モード（ジーニアスリモコンからのみ設定できます）

※ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。

自由設定モードのご使用方法

- ジーニアスリモコンをご使用の場合のみ設定を変更することができます。
- 以下の条件をすべて満たしたとき、普通換気（バイパス換気）に切り換ります。
  自由設定モードでは、室内外温度差、室内温度下限値、外気温度下限値を自由に設定することができます。
  a.（室内温度 − 外気温度）≧ 室内外温度差　（工場出荷時： 4℃）
  b. 外気温度 ≧ 外気温度下限値　（工場出荷時：14℃）
  c. 室内温度 ≧ 室内温度下限値　（工場出荷時：24℃）
- 自由換気モード制御温度 MAP は工場出荷時設定を示しています。

自由換気モード制御温度 MAP



機能設定　つづき

※下記以外の値に設定することはできません。

■室内外温度差設定

ジーニアスリモコン			動　作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
52	0		0℃以上
	1		1℃以上
	2		2℃以上
	3		3℃以上 *2
	4		4℃以上（工場出荷時）*1
	5		5℃以上
	6		6℃以上
	7		7℃以上

■室内温度下限値設定

ジーニアスリモコン			動　作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
54	0		17℃以上
	1		18℃以上
	2		19℃以上
	3		20℃以上
	4		21℃以上
	5		22℃以上
	6		23℃以上
	7		24℃以上（工場出荷時）*1*2
	8		25℃以上
	9		26℃以上
	10		27℃以上
	11		28℃以上
	12		29℃以上
	13		30℃以上

■外気温度下限値設定

ジーニアスリモコン			動　作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
53	0		10℃以上
	1		11℃以上
	2		12℃以上 *2
	3		13℃以上
	4		14℃以上（工場出荷時）*1
	5		15℃以上
	6		16℃以上
	7		17℃以上
	8		18℃以上
	9		19℃以上
	10		20℃以上
	11		21℃以上
	12		22℃以上
	13		23℃以上

*1 通常モード設定値
*2 外気冷房優先モード設定値

4 予熱時外気取り入れ停止設定（遅延運転設定）

空調機と連動運転する場合に、ロスナイの運転開始を設定時間だけ遅延させることで空調機の温調効果を高めます。

- 以下でご使用の場合、空調機が冷房または暖房で運転開始時に本機能が有効となります。
  a. 三菱マルチエアコンと連動する場合
  b. 三菱スリムエアコンとロスナイ連動ケーブルで連動する場合
- 上記以外の空調機と連動（TM2 1 2 または 1 3 をご使用の場合）する場合、空調機の運転開始時に本機能が有効となります。暖房、冷房などの運転モードによりません。
- ロスナイが停止してから２時間以内に運転開始した場合、本機能は無効となります。遅延せず、すぐに運転します。

本体回路			ジーニアスリモコン			動　作
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
SW5	1 ■		9	1		通常（工場出荷時）
	- *1			2		遅延動作 15 分
	1 ■			3		遅延動作 30 分

※ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。
※「1 パルス入力設定」で、「パルス信号入力あり」に設定した場合は、本機能を使用できません。
*1 ジーニアスリモコンからのみ設定可能です。

5 モニター出力設定

モニター出力端子(TM3)から取り出せる出力信号を用途に応じて切り換えることができます。電動ダンパー、補助送風機などを送風機の運転に連動させたい場合は、送風機モニター出力に設定してください。

本体回路			ジーニアスリモコン			出力端子	動　作
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW5	2 ■□		12	1		TM3 ⑨⑩	運転モニター出力設定 ロスナイの運転時に ON*1 します。(工場出荷時)
	2 □■			2			給気用送風機モニター出力設定 給気用送風機の運転時に ON*1 します。
SW7	8 ■□		44	1		TM3 ⑦⑩	普通換気(バイパス換気)モニター出力設定 ダンパー動作が普通換気時に ON*1 します。(工場出荷時)
	8 □■			2			排気用送風機モニター出力設定 排気用送風機の運転時に ON*1 します。

※ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(本体回路 SW 優先)になっています。
※下記出力は同時に取出すことはできません。
・運転モニターと給気用送風機モニター
・普通換気モニターと排気用送風機モニター
*1 モニター出力端子の接点が閉(ショート)となります。

6 排気用送風機運転設定

以下の条件で給気用送風機が停止した場合について、排気用送風機の動作を選択することができます。
・加湿準備運転中(取扱説明書の「使いかた」をご参照ください)
・以下でご使用の場合、空調機が霜取運転などにより送風機を停止させたとき
a. 三菱マルチエアコンと連動する場合
b. 三菱スリムエアコンとロスナイ連動ケーブルで連動する場合

本体回路			ジーニアスリモコン			モード	動作
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW5	3 ■□		13	1		停止	排気用送風機が停止します。 給気:停止/排気:停止
	3 ■□			2		運転	リモコンの設定風量で運転します。 給気:停止/排気:運転(工場出荷時)

※ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(本体回路 SW 優先)になっています。

7 メンテナンス表示設定

リモコンへのメンテナンス(お手入れ時期)表示を設定します。
工場出荷時はフィルターメンテナンス表示する(3000 時間)に設定されています。
※ジーニアスリモコンをご使用の場合はロスナイエレメントの清掃時期(6000 時間)、加湿エレメントの清掃時期(1250 時間)の表示も可能です。

本体回路			ジーニアスリモコン			メンテナンス表示
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
SW5	5 ■□		1	1		フィルターメンテナンス表示する(3000 時間)(工場出荷時)
	5 □■			2		フィルターメンテナンス表示しない
–	–		2	0		ロスナイエレメントメンテナンス表示しない(工場出荷時)
	– *1			1		ロスナイエレメントメンテナンス表示する(6000 時間)
–	–		3	0		加湿エレメントメンテナンス表示しない(工場出荷時)
	– *1			1		加湿エレメントメンテナンス表示する(1250 時間)

※ 機能設定 No.1 のジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(本体回路 SW 優先)になっています。
*1 ジーニアスリモコンからのみ設定可能です。

お願い

● メンテナンス表示が点灯しましたら、エアフィルターまたはロスナイエレメント、加湿エレメントを清掃後、リモコンの取扱説明書に従ってメンテナンス表示をクリアしてください。

機能設定　つづき

8 連動モード設定

空調機または外部機器との連動運転中に、リモコンからの停止操作を禁止することができます。

- 以下でご使用の場合、本機能が有効となります。
  a. 三菱マルチエアコンとの連動運転中
  b. 外部機器との連動運転中（TM2 1 2 または 1 3 をご使用の場合）

本体回路			ジーニアスリモコン			モード	動　作
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW5	7 ■ 8 ■		15	1		通常 （工場出荷時）	連動運転中もリモコンによる停止操作ができます。
	7 □ 8 □			4		外部連動優先	連動運転中はリモコンからロスナイを停止することができません。

※ ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。
※「1 パルス入力設定」で、「パルス信号入力あり」に設定した場合は、連動モードは使用できません。

9 親機設定

複数のロスナイを１つの信号入力で連動制御する場合、１台を親機に設定して信号入力を行ってください。

- 下記で制御する場合
  ・外部機器の信号入力（TM2）
  ・遠方入力（CN32）
  ・外部加湿入力（CN25）
  ※ ジーニアスリモコンまたはロスナイコンパクトリモコンを使用しない場合、「電気工事」の 5 項に従いロスナイ同士のリモコン伝送線接続端子をつないでください。
- ジーニアスリモコンを使用して下記で制御する場合
  ・普通換気切換入力（CN16）
  ・ヒューミディ入力（CN25）
  ※ ジーニアスリモコンを使用しない場合、連動制御はできません。
  ロスナイごとに信号入力を行ってください。
- ロスナイのアドレス設定を行う場合、本設定は不要です。
  グループ内で最も若いアドレスのロスナイが親機となります。
  詳細は本書の「アドレスの設定」をご参照ください。

本体回路			モード	動　作
スイッチ	OFF　ON	チェック		
SW7	1 ■		―	外部信号を入力しません。 （工場出荷時）
	1 □		親機	外部信号を入力します。

10 緊急停止設定

遠方入力（CN32）で製品停止後、加湿エレメント乾燥運転、ナイトパージによる送風機の自動運転を禁止します。

※ 外部機器との連動（TM2 1 2 または 1 3 をご使用の場合）で製品を停止させた場合は、本設定に関係なく加湿エレメント乾燥運転、ナイトパージを行います。

本体回路			ジーニアスリモコン			モード	動作
スイッチ	OFF　ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW7	5 ■		65	1		通常停止	遠方入力で製品停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転、ナイトパージを行う。（工場出荷時）
	5 □			2		緊急停止	遠方入力で製品停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転、ナイトパージを行わない。*1 *2

※ ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。
※ 三菱ビル空調管理システムで集中管理機器（システムコントローラなど）を設置する場合、緊急停止は集中管理機器から行ってください。本機能は使用しないでください。
*1 緊急停止の解除後は、一度製品の運転 / 停止操作を行う等で加湿エレメント乾燥運転を行ってください。乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し、異臭が発生する場合があります。異臭が発生した加湿エレメントは交換が必要となります。
*2 グループに 2 台以上の製品を接続する場合、ジーニアスリモコンを接続してください。

11 加湿操作の設定（加湿器自動運転）

手元リモコンを使用しない場合、空調機と連動しない場合など外部からの加湿操作がないときに設定します。

本体回路			モード
	OFF ON	チェック	
SW2	8 ■		手元リモコンの加湿モード切換、または空調機の暖房運転に連動して加湿運転をします（工場出荷時）
	8 ■		ロスナイの運転 / 停止で、加湿運転 / 停止します

※ 外気温度 12℃以上で加湿器を停止させたい場合は、SW7-2 を ON にしてください。
※ ロスナイを複数台運転の場合は 1 台のみ親機設定（SW7-1 ON）をして、親機のみ本設定をしてください。

12 加湿自律有効の設定

中間期や夏期（外気温度が 12℃以上）に自動で加湿器を停止させたい場合に設定します。

本体回路			ジーニアスリモコン			動　作
	OFF ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
SW7	2 ■		11	1		無効（工場出荷時） 外気温度 12℃以上での加湿運転許可
	2 ■			2		有効 外気温度 12℃以上での加湿運転禁止

※ ジーニアスリモコンを使用する場合は、加湿モード切換が「自動」のときのみ有効となります。
※ ジーニアスリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（本体回路 SW 優先）になっています。

13 ヒューミディスタット入力設定

市販のヒューミディスタット等を遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を使用して回路基板コネクター CN25 に接続して外部からの信号で加湿制御を行う場合、設定します。
工場出荷時は「無効」に設定されています。

本体回路			ジーニアスリモコン			モード	動　作
	OFF ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW5	9 ■		25	1		無効	ヒューミディスタット等を使用しません（工場出荷時）
	9 ■			2		有効	市販のヒューミディスタット等を用いて加湿制御を行います

※リモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。
※ジーニアスリモコンを使用する場合、ヒューミディスタット入力設定をした製品を「9 親機設定」することで複数台運転が可能になります。
※ジーニアスリモコンを使用して同一グループ内のロスナイを個別のヒューミディスタット等で加湿制御する場合、機能設定 No.34 を設定値「1」に設定してください。
※ジーニアスリモコンを使用する場合、加湿モード切換が「自動」のときのみ、ヒューミディスタット等の加湿制御が有効となります。

試運転

据付工事後の確認

⚠ 注意

- 電源端子台と大地間を 500V メガーで計って 1.0M Ω以上であることを確認する。
  - ・絶縁抵抗が、1.0M Ω未満の場合は運転しないでください。
  - ・伝送線用端子台にはメグチェックは絶対にかけないでください。制御基板が破損します。
- リモコン線・伝送線用端子台には絶対に電圧をかけないでください。制御基板が故障します。
- 試運転の際に、水漏れがないことを確認してください。
- 冬期の試運転を行う場合は、加湿部分への流入空気条件が 0℃以下にならないように室内暖房運転と併用して実施してください。試運転実施後は給水バルブを閉止し、排水弁を用いて製品本体内の水抜きを実施し、加湿「切」にしたうえで、累計 3.5 時間以上、送風機を運転し、加湿エレメントの内に水分が残留しないようにしてから実施してください。

試運転前に下記事項をご確認いただき、必ずチェックボックス☑をチェック願います。
確認後は試運転を必ず実施してください。

(1) 製品据付チェック 　　**参照ページ**

- □室外側ダクト 2 本には断熱材を巻付けてありますか？ …… 9 ページ
- □室外側ダクトは壁側に向かって 1/30 以上の下りこう配を確保していますか？ …… 9 ページ
- □ロスナイの据付けは緩みなどなく、確実に据付けられていますか？…… 9 ページ
- □本体据付角度は水平もしくは 1°以内になっていますか？…… 8 ページ
- □ドレン配管、給水配管等の断熱工事は完全に行いましたか？……10 ～ 11 ページ
- □ドレン配管、給水配管は正しく配管されていますか？……10 ～ 11 ページ
- □全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレが無いことを確認しましたか？……11 ページ
- □排水チューブにねじれやつぶれが無いことを確認しましたか？……11 ページ
- □ドレン排水の確認を行いましたか？……11 ページ
- □製品の吸込口、吹出口は塞がれていませんか？…… 2 ページ

(2) 電気工事チェック

- □電源と本体形名、リモコンの組合せは正しいですか？……16 ～ 22 ページ
- □電源に漏電ブレーカーは設置されていますか？……12 ページ
- □接続電線は結線図通り結線されていますか？……14 ページ
- □接続電線の端子台への接続は確実ですか？……15 ページ
- □接続電線はコードクリップで固定しましたか？……15 ページ
- □基板上のコネクターのはずれはありませんか？……16 ～ 22 ページ
- □アース工事はされていますか？……15 ページ
- □電源電線、伝送線の太さ、仕様は適正なものを使用していますか？……15 ページ

(3) 機能設定チェック

- □親機設定 (SW7-1) の設定は正しいですか？ …… 19、28 ページ
- □アドレス設定スイッチ (SA1, SA2) の設定は正しいですか？ ……23 ページ
- □機能切換スイッチ (SW2, SW5, SW7) の設定は正しいですか？……24 ～ 29 ページ
- □ジーニアスリモコンからの機能設定は正しいですか？……24 ～ 29 ページ
  （詳細は接続するジーニアスリモコンの据付工事説明書を参照してください）

※初期不具合を防止するため、必ず据付工事後の確認を実施いただき、お客様にお渡し願います。

システム全体の設置完了後、誤結線がないか確認し、各システムのリモコン（外部機器用操作スイッチ等）の取扱説明書を参照して試運転を行ってください。

お願い

- 試運転時（排水時）に排水がドレン配管から戻らないことを確認してください。排水が戻る場合は、ドレン配管のこう配を見直してください。
- 試運転や立会検査実施後は、給水バルブまたはサービス弁を閉止し、排水弁を用いて給水配管内の水抜きを実施した上で、加湿「停止」、「ロスナイ換気」運転で累計 3.5 時間以上送風機を運転し、加湿エレメントの乾燥運転を行ってください。
- 乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し異臭が発生する場合があります。なお、異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。
- 給水バルブまたはサービス弁を閉止しないと、凍結・ウォーターハンマー等の影響により電磁弁・ストレーナが破損し水漏れの原因となります。

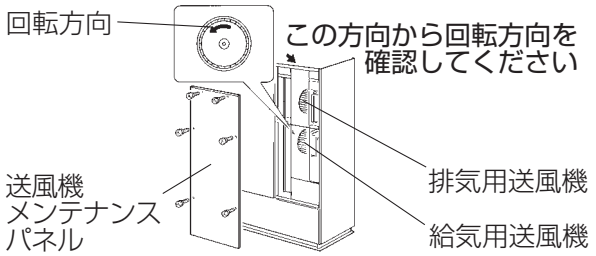
1 ロスナイ単独の試運転

本体回路		試　運　転　動　作
	OFF　ON	
SW2	1 ■	・ バイパスダンパー用電動機に約 1 分間通電されダンパー板が動作する。 送風機用電動機（M1、M2）に通電され、運転する。 ・ 電磁弁に通電されて電磁弁が開き、給水を開始する。

1 運転開始	2 加湿確認	3 運転停止
1. ロスナイに電源を供給する。 2. 試運転スイッチ（SW2-1）を「ON」にする。 〔試運転動作〕 ①普通換気に切り換わり、強（固定）で運転を開始する。 ②1分後、送風機が停止し、ダンパーがロスナイ換気に切り換わる ③ロスナイ換気で運転再開（SW OFFまで） 3. 送風機の運転状態およびダンパー動作を確認する。	1で試運転スイッチ（SW2-1）をONにしたまま加湿エレメントへの給水チューブを1か所はずし、水が供給されているか確認する。	試運転スイッチ（SW2-1）を「OFF」にする。

※試運転スイッチを「ON」にすると、リモコン点検コード“0900”が表示されます。
※加湿エレメントの乾燥運転機能は働きません。

回転方向の確認



- 送風機メンテナンスパネルを取りはずし給気用送風機の羽根の回転方向を確認する。

メモ

- 排気用送風機の回転方向は、給気用送風機の回転と同じです。回転方向の確認は必要ありません。

お願い

- **回転方向が逆回転の場合、本体への電源接続（TM1）の結線を入れ換えてください。**

試運転　つづき

2 リモコンでの試運転

(1) ジーニアスリモコン（PGL-61DR2）の場合

下記の要領で各ボタンを押して正常に運転されるかを確認してください。

操作項目	操　作　部	表　示　部	手　　順
1. 通電		Please Wait 10%	電源投入する
2. 運転開始	運転ランプ 運転停止	会議室 12:34 金 運転 強 熱交換 外気 10℃ 室内 20℃ 給気 17℃ 加湿 換気	**運転/停止ボタンを押す**（運転ランプ点灯） 給気用送風機（SA）が先に運転し、5秒ほど後に排気用送風機（EA）が運転します
3. 換気モードの切換	F3	熱交換 普通 自動 自動	**F3ボタンを押す** 「熱交換」→「普通」→「自動」と切り換わる 換気の切換わりの際、一旦送風機が停止します
4. 加湿の運転/停止	F1	自動 運転 停止 状況に合わせて表示が変わる	**F1ボタンを押す** 「自動」→「運転」→「停止」と切り換わる 加湿運転後5分間は給気送風機が停止します ■自動は加湿自律制御が「有効」、あるいはヒューミディスタット入力を「使用する」に設定されている場合に表示されます
5. 運転停止	運転ランプ 運転停止	会議室 12:34 金	**運転/停止ボタンを押す**（運転ランプ消灯） 停止から5分経過後、自動的に乾燥運転します

※バックライトが消えているときは最初のボタン操作でバックライトを点灯します。
　操作内容は受け付けません。（運転/停止ボタンは除く）

(2) ロスナイコンパクトリモコン（PZ-N43SMF2）の場合

下記の要領で各ボタンを押して正常に運転されるかを確認してください。

操作項目	操　作　部	表　示　部	手　　順
1. 通電		HO	**ロスナイに電源を供給します** （「HO」が最大45秒点滅）
2. 運転開始	運転/停止 運転ランプ	換気 熱交換	**運転/停止ボタンを押す**（運転ランプ点灯） 給気用送風機（SA）が先に運転し、5秒ほど後に排気用送風機（EA）が運転します
3. 換気モードの設定	換気モード	換気 自動 熱交換 普通	**換気モードボタンを押す** 「自動」切換→「熱交換」固定→「普通」固定と切り換わる 換気の切換わりの際、一旦送風機が停止します
4. 加湿の入/切	加　湿	加湿	**加湿ボタンを押す** 表示部に「加湿」が表示され、加湿を開始する 再度加湿ボタンを押すと「切」になり、表示が消灯する 加湿運転後5分間は給気送風機が停止します
5. 運転停止	運転/停止 運転ランプ		**運転/停止ボタンを押す**（運転ランプ消灯、通電表示のみ） 停止から5分経過後、自動的に乾燥運転します

※設定する機能がないボタンを押した場合、「無効ボタン」を表示します。
※バックライトが消えているときは最初のボタン操作でバックライトを点灯します。
　操作内容は受け付けません。（運転/停止ボタンは除く）

3 システム全体の中でのロスナイ試運転

■空調機または外部機器と連動運転システムの場合

- 空調機のリモコンスイッチまたは外部機器用操作スイッチを利用して空調機とロスナイの連動を確認する。
- 遅延設定されている場合は（フリープラン空調機の場合は冷暖起動時）遅延時間経過後にロスナイの運転を確認する。

■ MELANS システムの場合

- 三菱ビル空調管理システム（MELANS）にてロスナイの運転を確認する。

試運転　つづき

4 試運転時異常があった場合

<table>
<tr><th>現　象</th><th>処　置</th></tr>
<tr><td>ジーニアスリモコン、ロスナイコンパクトリモコンの運転スイッチを押しても運転しない</td><td>
● 電源確認（指定電源 3 相 200V、線径 φ 1.6 以上、開閉器容量）
● 結線の確認（TB5 の①②にリモコンからの伝送線が接続されているか確認）
● 伝送線の短絡、断線の確認（伝送端子間電圧が DC10 ～ 13V を確認）
● 伝送線と電源線および他の伝送線とが 5cm 以上離れているか確認
● 試運転スイッチ（SW2-1）にてロスナイ単独で運転を行いロスナイ運転を確認する
<table><tr><td>ロスナイは運転する</td><td>→</td><td>伝送線を点検</td></tr><tr><td>ロスナイは運転しない</td><td>→</td><td>電源の確認</td></tr></table>
● ジーニアスリモコン、もしくはロスナイコンパクトリモコンが 3 台以上取付けられていないか確認（最大 2 台まで）
● ロスナイとリモコン間の伝送線総延長の確認
ジーニアスリモコンの場合：最大 200m　　ロスナイコンパクトリモコン：最大 200m
</td></tr>
<tr><td>M-NET 使用時、ジーニアスリモコン、ロスナイコンパクトリモコンまたは MELANS の運転スイッチを押しても運転しない</td><td>
● 電源確認（指定電源 3 相 200V、線径 φ 1.6 以上、開閉器容量）
● 結線の確認　（TB5 の①②にリモコンからの伝送線が接続されているか確認）
（TB5 の ⒶⒷ に M-NET 伝送線が接続されているか確認）
● 給電ユニットの有・無及び電源が入っているか確認（ロスナイのみのシステムの場合、給電ユニットが必要です）
● M-NET 伝送線の短絡、断線の確認（伝送端子間電圧が DC20 ～ 32V を確認）
● M-NET 伝送線と電源線および他の伝送線とが 5cm 以上離れているか確認
● ロスナイ単独で運転を行いロスナイ運転を確認する
<table><tr><td>ロスナイは運転する</td><td>→</td><td>伝送線を点検</td></tr><tr><td>ロスナイは運転しない</td><td>→</td><td>電源の確認</td></tr></table>
● M-NET の伝送線総延長、伝送線給電制約を確認（技術資料等を参照してください）
</td></tr>
<tr><td>空調機または、外部機器と連動しない</td><td>
● パルス入力スイッチ（SW2-2）が「OFF」になっているか確認（ジーニアスリモコン（PGL-61DR2）からも設定できます）
● 空調機または外部機器とロスナイ間の伝送線の総延長を確認（技術資料等を参照してください）
● 外部制御入力端子（TM2）の接続を確認
有電圧 DC12V または 24V 出力機器の場合　外部制御入力端子　①②に接続
無電圧 a 接点出力機器の場合　外部制御入力端子　①③に接続
当社製スリムエアコンの場合　外部制御入力端子　①②に接続
● 空調機リモコン、MELANS にて登録操作を行う（空調機リモコン、MELANS の取扱説明書による）
● 遅延設定されていないか確認
● 外部機器からの信号線を外部制御入力端子からはずして確認
<table><tr><td></td><td>運転信号</td><td>停止信号</td></tr><tr><td>有電圧 DC12V または 24V 出力機器</td><td>DC12V または 24V</td><td>DC0V</td></tr><tr><td>無電圧 a 接点出力機器</td><td>抵抗 0 Ω</td><td>抵抗無限大Ω</td></tr><tr><td>当社製スリムエアコン</td><td>DC2 ～ 6V（パルス信号）</td><td>DC2 ～ 6V（パルス信号）</td></tr></table>
● ロスナイ複数台運転で外部制御入力端子に接続されているロスナイの親機設定スイッチ（SW7-1）が親設定になっているか確認またはその他のロスナイは SW7-1 が OFF になっているか確認
</td></tr>
<tr><td>ロスナイが停止しない</td><td>
● 試運転スイッチ（SW2-1）が「OFF」になっているか確認
● ロスナイが加湿エレメント乾燥運転を実施している
</td></tr>
<tr><td>コントロールボックス内部のロスナイ本体異常表示ランプ（LED1 緑）が点滅している</td><td>
<table><tr><td>3 回</td><td>ダンパーモーター関係の故障</td><td rowspan="6">電源を切ってお買い上げの販売店にお申しつけください</td></tr><tr><td>4 回</td><td>ロスナイ（OA 側）サーモ関係の故障</td></tr><tr><td>5 回</td><td>ロスナイ（RA 側）サーモ関係の故障</td></tr><tr><td>6 回</td><td>加湿コネクターのはずれ</td></tr><tr><td>7 回</td><td>加湿器の故障</td></tr><tr><td>9 回</td><td>リモコン通信異常</td></tr><tr><td>10 回
または
11 回</td><td>機能設定エラー
同一グループで親機設定（SW7-1）が 2 台以上 ON になっている</td><td>外部信号を入力する製品を親機に、それ以外を子機に設定してください</td></tr><tr><td>11 回</td><td>リモコン給電異常
リモコン伝送線がショートしている</td><td>リモコン伝送線を確認してください</td></tr><tr><td>点灯</td><td>遅延中</td><td>ジーニアスリモコン、ロスナイコンパクトリモコンがない場合は、30 分経過後消灯（運転）します</td></tr></table>
</td></tr>
<tr><td>コントロールボックス内部の M-NET 系異常表示ランプ（LED2 赤）が点滅している</td><td>
<table><tr><td>1 回 ~8 回</td><td>M-NET 通信上の異常</td><td>電源を切ってお買い上げの販売店にお申しつけください。</td></tr><tr><td>点灯</td><td>登録操作をしていない</td><td>コントローラにて登録操作をしてください</td></tr></table>
※ M-NET を使用しない場合は、LED2 の点滅・点灯は異常ではありません。
</td></tr>
<tr><td>加湿しない</td><td>
●サービス弁が開いているか確認　●空調機が暖房運転中か確認（暖房時に加湿器が運転します）
●加湿自律有効設定（本体回路 SW7-2 が ON）されているか確認（自律有効設定されている場合、PGL-61DR2 の加湿操作が「自動」になっている場合、または PZ-N43SMF2 を使用している場合は外気温度 12℃以上では加湿しません）
●ナイトパージ運転時は加湿しません　●ヒューミディスタットの接点が ON になっているか確認
</td></tr>
</table>

■リモコンに異常情報が表示されたときはリモコンに付属の説明書に従って処置してください。
■外部機器の信号で運転させる場合はロスナイに電源が投入されてから約 2 分後に運転します。

お客様への説明

- 別冊の「取扱説明書」に従って正しい使いかたを説明してください。特に「安全のために必ず守ること」の項は安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようご説明ください。なお、物件などで使用者が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理会社へご説明ください。
- この「据付工事説明書」は、据付工事が終わりましたら、別冊の「取扱説明書」とともにお客様へ必ずお渡しください。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、
再生紙を使用
しています。